

朝鮮民主主義人民共和国

朝鮮民主主義人民共和国

面積 12万0538 km² (1977年)

人口 1791万人 (1980年、国連推計)

首都 ピョンヤン (平壤)

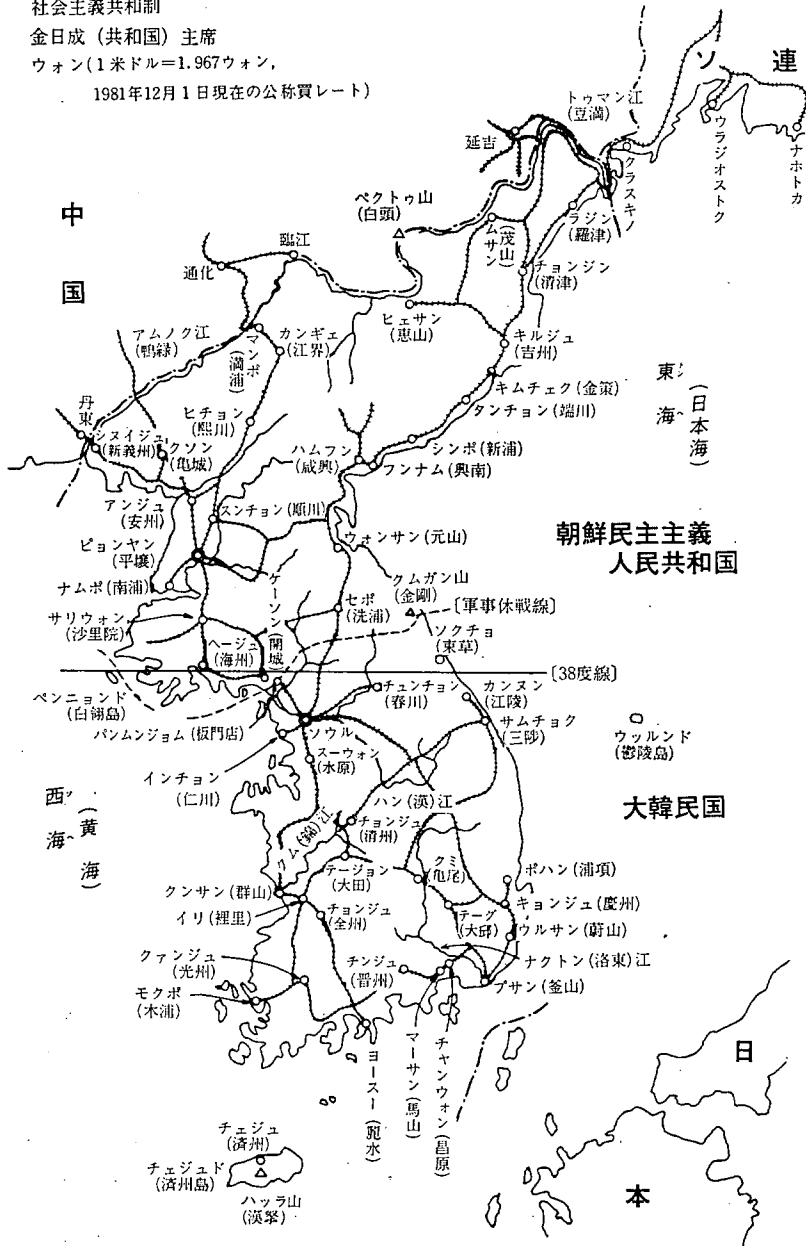
言語 朝鮮語

政体 社会主義共和制

元首 金日成 (共和国) 主席

通貨 ウォン (1米ドル=1.967ウォン、

1981年12月1日現在の公称買レート)



1981年の朝鮮民主主義人民共和国

——新たな苦境の始まり——

玉 城 素

1981年は「第6回党大会決定貫徹のための総進軍開始の年」と規定されて、新しい昂揚をつくり出そうとする内外の大キャンペーンが展開された。対内的には、金正日書記の世襲後継者化を確定していく作業が中軸となって、諸施策、運動が推進され、82年4月に迎える金日成主席の生誕70周年記念行事準備に結びつけられていく。対外的には「高麗民主連邦共和国方案」に対する国際的な支持を獲得しながら、韓国の全斗煥政権を孤立させ打倒するための多様な宣伝・運動が執拗に展開された。しかし、このような政治課題に力を集中しすぎたためか、経済建設の面では前年来一定の混乱と低迷が進行しているようであり、民心にも動揺が起り始めているように見られる。また対外的にも、最も頼みとしていた非同盟諸国・発展途上国のあいだに、相互対立が顕在化しているだけでなく、韓国を支持する傾向が台頭してきた。77年以後、一応危地を脱して新軌道に乗ったかに見えた共和国は、ここへきて、新たな苦境に直面し始めたようである。

国内政治

この年の国家主要機関、党最高機関の活動状況は、比較的地味で経済面に重点をおいているように見える。

国家面で見ると、3月5日に道・市・郡人民会議の選挙が全国的に実施され、地方主権機関である道・市・郡人民会議が再構成された。3月中には道・市・郡の人民委員会、行政委員会の幹部が選出されている。ついで4月6～8日に最高人民会議第6期第5回会議が開催されたが、これは「1980年度国家予算執行の決算と1981年度国家予算について」という単一議案を審議決定しただけで終わっている。

また、例年の国家的行事である金日成主席生誕記念日（4月15日、69歳）、共和国創建記念日（9月9日、33周年）も、年数が端数であるためもあって、きわめて地味に終った。

また党関係では、次の諸会議がひらかれている。

1. 党中央政治局・中央人民委員会連合会議（2月19日）——非同盟諸国外相会議参加代表団の活動報告
2. 党中央委第6期第3回総会（4月1～2日）——「大安の事業体系を徹底的に貫徹し、工場管理運営をいっそう強化することについて」（延亨默政治局委員・書記報告）
3. 党中央委第6期第4回総会（10月4～6日）——「全党、全国、全人民がこぞって海面干拓と新しい土地開墾のための大自然改造事業を力強く繰り広げることについて」（李鐘玉政治局常務委員・國務院総理報告）
4. 党中央政治局拡大会議（12月7～9日）——「1982年度人民経済発展計画について」（洪成龍政務院副総理兼国家計画委員会委員長報告）

この4回の会議のうち1.を除けば2.3.4.ともすべて、経済問題を議題にしている（詳細の分析は別項）。

だが、その反面諸分野・大衆団体レベルの記念行事や大会、国際的な会議と行事、賓客歓迎行事が、年間を通じて目白押しに行なわれたのが、この年の重要な特徴となった。

諸分野・大衆団体レベルの記念行事が、きわめて多かったのは、ちょうどこの年が1946年における人民共和国の実質的国づくり開始の時から35年目に当たったことも関連している。その主要なものを、35周年以外のものもふくめて列挙すると次の通りである。

1. 社会主義労働青年同盟創立35周年中央報告

- 大会 (1月16~17日)
2. 農業勤労者同盟創立35周年記念中央報告大会 (1月31日)
 3. 土地改革法令発布35周年中央報告大会 (3月4日)
 4. 朝鮮人民軍創建49周年中央報告大会 (4月24日)
 5. 祖国光復会創建45周年中央報告会 (5月4日)
 6. 祖国平和統一委員会結成20周年記念報告会 (5月12日)
 7. 『民主朝鮮』紙創刊35周年記念報告会 (6月4日)
 8. 朝鮮少年団創立35周年記念中央報告大会 (6月6日)
 9. 在北平和統一促進協議会結成25周年記念報告会 (7月1日)
 10. 血の海歌劇団創立10周年記念報告会 (7月16日)
 11. 祖国統一民主主義戦線結成35周年記念報告会 (7月21日)
 12. 男女平等権法令発布35周年報告会 (7月29日)
 13. 朝鮮記者同盟創立35周年報告会 (10月12日)
 14. 打倒帝国主義同盟結成55周年記念平壤市報告会 (10月16日)
 15. 朝鮮キリスト教連盟結成35周年記念中央報告大会 (11月28日)
 16. 『三・一月刊』創刊45周年記念中央報告大会 (11月30日)
 17. セナル少年同盟結成55周年記念中央講演会 (12月14日)

以上のほかにも諸大学創立35周年 (金日成高級党学校、人民経済大学、工場大学、金日成総合大学、金星政治大学) 記念行事や、金主席諸労作発表記念日や、南朝鮮の革命的闘争記念日や、外国の革命記念日などの行事が、絶えず行なわれており、人民共和国は行事国家のような観を呈した。これらの共通性格は、金主席の偉業を最大限にたたえとともに、その偉業を「代を継いで」継承していくとの決意を新たにさせるためのイデオロギー・キャンペーンの展開である。

これらのキャンペーンを通じて、「偉大な指導者金主席」と並列した存在としての「栄えある党

中央」「栄えある党の指導」という表現がひろく普及させられていく。これは、第6回党大会以降、金主席はもっぱら国賓客の接待や各地域の産業・建設現地指導などの榮譽職的役割に専念し、党指導の実務は完全に金正日書記に任せたという事態を、新しい語法で周知させようと努めているようである。くわしくは後述する金主席の現地指導にさいしても、従来行なわれた地域党組織の会合召集という現象は1回しかなくなり、「関係部門活動家会議」の召集にとどまっていることも、その証左となる。また4月ごろから金日成を「太陽」、金正日を「嚮導星」になぞらえる表現も登場してくる「主席を偉大な太陽として高く戴き、栄えあるわが党を民族の嚮導星として戴くことは、わが人民の最大の民族的栄光であり、このうえない幸福である」(『労働新聞』4月10日号編集局論説「敬愛する金日成同志はわが民族の運命を輝かしく切り開く偉大な指導者」)。

だが、8月に至るまで、金正日書記は公式舞台にほとんど全く登場していない。わずかに、5月29日、前日死去した沈昌完社会安全部政治局長の霊前に他の諸幹部とともに哀悼の意を表しに現われたのが唯一の例である。それ以外の当然登場してよいケース、たとえば1月16~17日の社労青創立35周年中央報告大会にも、3月5日の道・市・郡人民会議代議員選挙にも、他の党・政府幹部の参加が大きく報じられているにもかかわらず、金正日書記の名は登場していない。この点は、未だに謎を残している。この間に、金正日後継者化について共和国内外に大きな抵抗や反対があったためという推測もなされている。国内では、金主席自身が後継者の急速な台頭を喜ばなかったのではないとか、金聖愛主席夫人をはじめ古参幹部や実務派幹部ないし人民軍内部にも根強い反対があったのではないかとの説がある。事実、「偉大な金主席」と「栄えある党中央 (ないし党)」を並列して賞賛する表現だけでなく、「偉大な指導者金主席を首班とする党中央委員会のまわりにかたく団結する」ことを訴える表現も、場合によって見出され、微妙にニュアンスを異にしている。

また古参幹部の中では、崔賢前人民武力部長が全く姿を現わさなくなり、金一副主席、徐哲政治局委員などの重要公式場面への登場度も低下して

きている（金一の場合には、祖国平和統一委員会委員長としての職責での登場に限定されてきている）。また李鐘玉総理の場合には、経済テクノクラートの重鎮であるにもかかわらず、年間を通じてきわめて頻繁に外国訪問に出て国を留守にしており（5回9カ国、延べ62日間）、経済指導から外されたかの如き感がある。金聖愛夫人（女性同盟委員長）の場合には、わずかに7月25日の男女平等権法令発布35周年記念報告会で記念報告を行なったのみで、社会団体代表が顔をそろえるような会議や行事にも出席しておらず、女性同盟に関する行事の報道も見られない。

国外においては、中国の党と政府が、世襲後継者化に強く批判の態度を表明しつつけてきたことが知られている。ようやく11月21日に中国姫鵬飛副首相が、朝鮮労働党代表団（団長、金永南）歓迎宴席上の演説で「金正日書記同志の健康のために」乾杯を提議するという形で初めて公式に名前をあげている。ソ連、東欧諸国などの場合には、そこまでもいっていないので、表立って反対をしないものの、賛成もしかねるという微妙な態度をとっているように観察される。

このように複雑な状態を克服して、金正日書記が公然と登場するのは、8月8日に、吳振宇、延亨默、李昌善ら側近をひきつれて、平壤サーカス劇場の新作サーカス公演を観覧し、新課題を提示してからのことである。それを可能にした前提条件はいくつもあるが、ここには主要な現象をあげておこう。

第1は、日本からの訪朝代表団の動向である。2月に訪朝した日本社会党代表団の飛鳥田一雄団長は2月13日の金主席招宴の演説で「主席の最もよき同志であり、チュチェ偉業の継承者であられる金正日書記の御健勝と御活躍を深く祈念する」とのべ、5月に訪朝した日本山口県連帯委員会代表団の竹田豊団長は20日平壤で記者会見して「すべての成果が偉大な金日成主席と親愛なる金正日書記の賢明な指導の結果収められたものであると強く感じた」「親愛なる指導者金正日書記は今日世界人民の共鳴をよび起しているチュチェ偉業を前進発展させている」と語った。さらに6月訪朝した日本中国・四国・九州連帯委員会代表団の団長は、23日の記者会見で「偉大な指導者金日成主席

と英明なる指導者金正日書記の賢明な指導のもとに、貴国人民はかたく団結し難関にうち勝ち、革命と建設のあらゆる分野で多大な成果を収めた」と語り、8月に訪朝した日朝友好促進議員連盟の久野忠治会長は、2日の対外文化連絡協会招宴における演説で「偉大な指導者金日成主席の万年長寿のために、尊敬する金正日閣下の万年長寿のために乾杯する」ことを提議した。これで、あたかも日本の与野党をあげ、全国をあげて金正日書記の後継者化を歓迎しているかのような宣伝材料がそろったわけである（これ以後、訪朝する諸外国の代表団が招宴で金主席とともに金正日書記の「万年長寿」のために乾杯を提議することが通例となっていく）。

第2には、7月26日に大安重機械総合工場の青年集会在ひらかれ、本年度経済計画を大安事業体系創造20周年記念日（12月16日）前に終らせ、82年上半年計画を同年4月15日（金主席誕生日）まで繰り上げ達成して、主席生誕70周年を最大の民族的祝日として迎えるための「金日成主席生誕70周年記念忠誠の社会主義競争」を全国によびかけたことがあげられる。同工場は、共和国にとっては最大の拠点機械工場であり、4月の党中央委第6期第3回総会にも見られる通り、朝鮮労働党にとっては工業建設指導のモデルとなったシンボル工場である。その労働者が青年に限定された形ではあれ、金主席生誕70周年に当面の最大目標を定めて全国にアピールしたことの意味は大きい。

また前記サーカス公演観覧直後の8月17日に、中央人民委員会は、西江道新坡郡を「金貞淑郡」に、新坡女子高等学校を「金貞淑女子高等学校」に、恵山第2師範大学を「金貞淑師範大学」に改名する政令を発した。金貞淑は金主席の前夫人で金正日書記の生母である。従来も、金主席の父母金享稷や康盤石の名が学校名に用いられ、民族英雄としての金策、姜健、金鐘泰らの名が地名、学校名、工場名に冠せられたことはあるが、今回のように単に特定人物の「生母」であるために、地名、2学校名が同時に人名呼称をとるようになった例は珍らしい。これにより、生母を尊敬対象として制度化した人物として、金正日書記が金日成に次ぐ第二の地位にランクアップされたわけである。

このことから、金正日書記の活動がひんばんに

報道されつづけるようになる。

8月16日 最終段階に入ったスケートセンターと千席レストラン建設事業を実務指導。

8月25日 非同盟・発展途上国食糧・農業増産討論会会場視察。

9月18日 完成段階に入った人民大学習堂建設事業を実務指導。

9月29日 在日総連李季白副議長と会見。

10月20日 社労青第7回大会主席壇につく（金主席に次ぐ第2位）。

12月21日 牡丹峰競技場改造拡張工事と朝鮮芸術映画撮映所ロケ地建設事業を現地指導。

これら公式に報道されたもののほかにも、金主席生誕70周年を記念する世界最高の「チュチュの塔」や、世界最大の「凱旋門」などが、平壤市内で金正日書記の実務指導下で昼夜兼行で建設されているという訪朝者の見聞が伝えられている。金正日書記の実際の功績というものは、革命運動においても、戦争指導においても、経済建設においても皆無に近い。それを埋め合わせるために、文学芸術面の指導や、会場設営、記念碑的建造物の建造などの功績づくりが急がれているものと見てよい。

しかし、こういう金正日書記の世襲後継者化を実現するための権威づくり、功績づくりの運動は、裏面に大変な反発と抵抗をよび起こさざるをえないであろう。在日『統一日報』の報道しているような、9月初旬における清津市周辺の労農赤衛隊と朝鮮人民軍の武力衝突事件、11月初旬における新義州周辺の三大革命小組の地方政権奪取行動と人民の暴動事件などは、その兆候を示している。これらの事件は、まだ完全には確認されていないが、十分にありうる現象であり、訪朝人士の断片的な見聞情報によっても、それに近い事態が起こりつつあることは、推察に難くない。つまり、金正日の世襲後継者化を一日も早く確定しようとする工作が前面に出過ぎたために、国内の不満は、もはや抑え切れない段階に到達しつつあることである。このように深刻に内攻した矛盾を打開するために、「金正日後継者化」グループが、今後どのような手を打っていくか、予断を許さない状況に立ち至っているということができよう。

10月29日の『労働新聞』に発表された編集局論説「革命勝利に対するゆるぎない信念を抱いて力

強く前進するわが人民の大いなる誇り」は、その危機状況を、ある程度反映している。この編集局論説は、あらためて「未来を愛する精神、革命的楽観主義」を強調して、次のように指摘している。

「今、わが党員と勤労者の間では、敬愛する主席とわが党を離れては朝鮮革命を一步たりとも前進させることができず、祖国と民族の明るい未来などありえないということがゆるぎない信条となっている。いかなる環境の中でもわが党にすべての運命を全的に委ね、党に従って最後まで革命をしようとする崇高な精神に基づいているところから、未来に対するわれわれの信念はかくもゆるぎないものとなっている。」

「いかなる環境の中でも、自分の党と指導者のみをかたく信じて従い、退いたり、動揺したりすることなく自党の意図を貫徹するために水火をいわずにたたかう、これがまさに今日、わが人民の楽観主義であり、共産主義の未来に対する信念である。」

「わが人民は今、社会主義制度と革命の獲得物を守り、輝かせる闘争にすべてを捧げることをこの上ない幸福、最も気高い義務にみなしており、それを損ったり、抹殺しようとするいかなるさ細な要素に対しても少したりとも許さないでいる。」

このように異様に高い調子のよびかけは、「いかなる環境の中でも」という表現に示されるように、国際環境において、国民に影響を及ぼすような重大な困難が生じており、さらに、共和国内にも「社会主義制度と革命の獲得物」を「損ったり、抹殺しようとする」重大な動きが生じていることを示している。そして、全体を通じて、人心の不安動揺を静めるために、将来が「楽観」できるということをあらためて強調したものが見なされる。こういう論調が、党機関紙上に登場してきた点から見ても、この時期にあらわれてきた、内外の危機がいかに深刻なものであるかが想像できよう。

最高幹部の人事で特に注目されるのは、政務院副総理の異常な増員である。1977年12月の李鍾玉新政務院成立時は、桂応泰、許銑、鄭浚基、姜成山、孔鎮泰、金斗英の6名にすぎなかったが、その後78年に姜希源、79年に崔載羽、盧泰錫、80年に金敬連、趙世雄、徐寛熙、81年に崔光、李根

模、洪時学、金会一、洪成竜、金福信の12名が副総理になっている。ただし、このうち姜希源は80年以降党咸鏡北道委責任書記、清津市委責任書記となり、盧泰錫は79年12月に死去、趙世雄は80年に党平安南道委責任書記、李根模は81年に党南浦市委責任書記となっているので、現職副総理は14名と見られる。この副総理増員の意味は、未だに不明であるが、政務院を掌握しようとする最高指導部内の抗争が、ここに集中して表現されたものとも考えることもできる。

危機の進行のためか、憲法規定上では年内に行なわれるべき最高人民会議の改選は、ついに行なわれないでしまった。金正日書記の世襲後継者化を確定するためには、何よりも最高人民会議で国家的ポスト(副主席、中央人民委員など)に就く必要がある。82年1月9日になって2月28日に最高人民会議代議員選挙を実施するという同会議常設会議決定が発表された。

経済建設

前年の1980年における経済建設が、工業総生産高において17%の成長を達成したという表面的な成果誇示にもかかわらず、実質的に無内容なものであったことは、前年度本年報小牧レポートにも明らかにされている。81年度の重要課題は、依然として生産の高い水準での正常化も設備のフル稼働、組織と指導の改善におかれた(金主席、1981年「新年の辞」)。

同時に、この年は「第6回党大会決定貫徹の総進軍」を始める初年度とされ、「第2次7カ年計画をくりあげて完遂するための闘争を力強く展開する一方、社会主義経済建設の10大展望目標を実現するための準備を立派に整えること」が中心課題として設定された(同上)。だが、ここには大きな矛盾が横たわっていた。すでに「第2次7カ年計画」遂行途上に深刻な困難が生じ始めているにもかかわらず、新たに「10大展望目標」をかかげて、さらに過大な目標達成を、勤労者に強制しようとするやり方がそれである。これは、前項に分析した金正日書記の後継者化を早急に実現しようとするあわただしい展開とも重なっている。

そのために、経済建設における計画的・一貫性が

失われたばかりでなく、いわゆる「大記念碑的建造物」建設の優先的推進策によって、経済全体に大きな混乱と変調をひき起こした。この1年を通じ、経済危機が深刻な形で内攻しはじめた兆しが見られる。

この1年間を大きく概観して見ると、前半には工業生産の正常化に重点がおかれたのに対し、後半に入ると一転して農業問題が中心課題にすえおかれ、干拓地区造成を中心とする4大自然改造事業の推進が大々的にとり上げられるに至っている。これ自体が共和国経済を見舞っている激しい乱調を表現している。その状況を、さらに詳しくくたどって見よう。

(1) 前半期

例年のことであるが、1月には各地の工場、企業所、協同農場で、従業員決起集会や青年熟読者会議がひらかれて、10月10日までに今年度計画を遂行するための社会主義競争を全国にアピールした。

1月29～30日には全国品質管理活動家大会、3月29～31日には全国科学者・技術者大会が開催された。これら大会には李鐘玉総理はじめ経済テクノクラートを代表する重要幹部が列席したばかりか、金主席も終了後に大会参加者と会見するといった力の入れようであった。

このうち、全国科学者・技術者大会では、「党中央」が「2月17日科学者突撃隊」「5月19日技術革新突撃隊」「4月15日技術革新突撃隊」を組織した功績が賞揚されている。このうち「2月17日科学者突撃隊」については、1月28日の朝鮮中央通信が、「1978年2月17日に栄えある党中央が組織したものであって、科学院、工業科学院、山林科学院、水産科学研究院、政務院傘下多数研究所から選抜された有能な科学者によって組織し人民経済各部門に派遣したものと伝え、昨年10カ月間に3百数十件の科学研究課題を遂行し、約1000件の価値ある科学的発明と技術革新案を生産に組み入れたとしている。他の突撃隊の性格も、ほぼ同様であり、恐らく1978～79年の2年間に組織され、組織時点の月日を上に冠したものと想像される。このように知識人の行動隊を生産現場に派遣するという方式は、1973年の三大革命小組と同様であ

るが、同小組がまだ存続しているにもかかわらず新たに次々にこのような突撃隊を派遣しつづけないといけない点に、問題がある。なぜなら三大革命小組も「技術革命」を課題の一つとしてかけける行動隊であったはずだが、それでも足りずに、また新組織を創設派遣しなければならなくなったことを示しているからである。このことは、こうした“下放”方式が意外に効果を発揮しえないでいることと同時に、次々に新組織をつくることによって、組織系統、指導系統をますます複雑化せざるをえないというジレンマを物語っているのである。ついで4月1～2日にひらかれた朝鮮労働党中央委第6期第3回総会は、金日成総書記司会、延亨默政治局委員・書記報告によって「大安の事業体系を徹底的に貫徹し、工場の管理運営をいっそう強化することについて」の方針、対策を審議、決定した。

この方針では、①「設備管理」を「生産を正常化するための最も重要な条件」として重視し、②「上部が責任をもって資材を生産現場に供給する」という「資材管理」の強化を訴え、③「勤労者の労働生活を正規化・規範化」し「新しい記録、新しい基準を創造する運動」を展開して、「従業員1人当りの生産高」を向上させる「労力管理」の課題を提起し、④「作業班別・生産・財政総括制度」を生産者大衆の自主性と熱意を高める独創的な制度として評価する、などが重点となっている。ただ、結論部分の「企業管理の正規化・規範化」の部分では、経済機関の役割と、「三大革命赤旗獲得運動」、「隠れた英雄の模範を学ぶ運動」などを工場の管理運営に結びつけて行なう党組織の役割ならびに三大革命小組の役割が、ほぼ並列的に列挙されているだけである。順序からいえば、「経済機関」と「党組織」を「三大革命小組」の上位におこうとする意図がかくされているようにも見えるが、同時にこの3機関・組織が抜きがたい葛藤状態を演じつづけていることを物語っているともいえる。

この中央委総会の直後4月6～8日に開かれた最高人民会議第6期第6回会議も、前記のように「財政報告」を審議し、決算・予算を確定するのみにとどまった。この財政報告の主な問題点は次の通りである。

- (1) 本年度予算の伸びをきわめて低く見積っている——第2次7カ年計画期に入ってから各年歳出決算の伸び率は、78年10.4%、79年15.1%、80年11.0%であったのに対し、81年度歳出予算の伸び率を8.7%（歳入は7%）に抑えている。共和国財政の消長は、基本的に国営（地方営をふくむ）工業部門からの収入に左右される性格をもっている。従ってこれは、前年度の工業の不振を反映するとともに、今年度の展望についてもあまり自信を持ちえないことを示している。「人民経済に対する資金支出」すなわち経済的投資予算の伸び率も、80年決算の11.1%増に対し、9.5%増におさえられている。
- (2) 経済的投資予算の部門別順位と重点を見ると次のようである（対前年比）。
電力工業—170%、採掘工業—125%、金属工業—巨額、化学工業—巨額、建材工業—巨額、機械工業—巨額、交通運輸—113%、農業—125%、消費物質生産—膨大、水産—巨額。
これで見ると、金主席の「新年の辞」方針をそっくり踏襲して、電力最優先、採掘先行による工業生産正常化に重点がおかれていることは、ほぼ明らかであろう。
- (3) 都市建設において大記念碑的建造物建設が続行される——決算面では、平壤産院、蒼光院などの「大記念碑的建造物」の多数建設により「革命の首都平壤市」がいっそう雄大に美しくなったことが特筆されている。その継続として予算面では、平壤に「あたかも一つの都市を思わせる近代的な文繡通り」や「人民大学習堂」「平壤第1百貨店」の建設が目標にかかげられ、咸興市も「より衛生文化的な化学工業都市」として築くことになっている。この部分については、投資規模や伸び率などの数字は全くあげられていないが、巨額の資金が投入されるであろうことはまちがいない（なお、この部分は後になると、さらに膨脹する）。
- (4) 国防費の伸び率が上昇に転じた——国防費の対前年増加率は78年の11.9%、79年の9.3%、80年の7.3%（いずれも決算数字）に対して、81年予算は9.5%となっている。しかも

前年80年の場合は、予算で6.9%であったものが決算で7.3%になったのだから、今年も予算より上まわる可能性がある。

その後、6月29日に朝鮮中央通信は、各地の工場・企業所で今年度上半期計画を繰り上げ達成したと報道したが、その具体的な事例として挙げているものはきわめて貧弱で、全体的には上半期計画は達成できなかったものと見なされる。朝鮮中央通信は7月27日に、電力生産の増大と石炭生産の革新を大きく報道し、7月30日には発展する機械工業を報道した。ただし、これも優良事例の報道にとどまって、総括的な成果数字をあげていない。

(2) 後半期

ややさかのぼって6月10～12日に、平壤市で非同盟諸国食糧・農業部門調節第2回会議（加盟9カ国、非加盟8カ国、11国際機構参加）が開かれ、同月12日に『労働新聞』が「農業問題の解決は新社会の建設が第一義的に提起される課題」と題する論説をかかげたところから、経済建設の重点は、農業に移行し始める。また、5月22～23日の金主席南浦地区現地指導においては、干潟地干拓に大きな役割を果たす新聞門の視察が筆頭におかれ、7月7日の朝鮮中央通信は、大同江に昨年7月に完工した美林閘門の上流烽火山麓に麦田閘門という大閘門を建設中と報じた。7月14日には『労働新聞』が社説で、30万ヘクタールの干拓地建設目標を達成（第2次7カ年計画期間中に10万ヘクタール、次期段階に20万ヘクタール）する闘争に全党員勤労者が決起するよう訴えた。

8月26～31日に平壤市で開催された非同盟・発展途上国食糧・農業討論会は、81カ国・13国際機構の代表を参加させるという盛大な会議となって、農業部門への重点移行を決定的なものとした。

その後の中間経過は省略するが（日誌参照）、この農業部門重点移行の集大成を為すものが、10月4～6日に開催された朝鮮労働党中央委第6期第4回総会における「全党・全国・全人民がこぞって海面干拓と新しい土地開墾のための大自然改造事業を力強く繰り広げることについて」（李鐘玉総理報告）の審議、決定であった。この決定は、①30万ヘクタールの海面干拓、②20万ヘクタールの新耕

地開墾（①②で現在の穀物栽培総面積の3分の1に相当する新耕地を造成）、③南浦閘門建設、④泰川発電所（平安北道）建設を、「大自然改造構想」「4大建設課題」として提示し、これこそ「自然を改造してわが人民に自主的に創造的な生活を与えるための社会主義大建設戦闘であり、祖国の富強発展と子孫万代の幸福のための万年大計の大自然改造事業」「わが労働党時代に新しくうち立てられる誇らしい記念碑であり、子孫万代に末長く受けつがれる貴い財産であり、わが国における農業生産の急速な発展を確固と保証する威力ある下地であり、共産主義をたぐりよせる聖なる創造物」「チュチュの革命偉業を完成するための崇高な政治的課題」である等と、最大限の表現を使って表現した。また、この「わが党が新たに提起した雄大な大自然改造事業」は「祖国の統一偉業にも大きな寄与をなす意義深い出来事」であるとも指摘して、次のように述べている。

「われわれがこの大自然改造事業を立派に行い、農業生産で新たな転換を起こせば、米帝と南朝鮮かいらい一味の反人民的政策によって常時的な飢饉地帯に転落した南朝鮮人民に大きな希望と励ましを与え、かれらを反ファッショ民主化と祖国統一のための闘争へとというそう力強く呼び起こすことになるであろう。」

ここに、ある意味では真の意図がかくされているといってもよいであろう。つまり、工業部門では、どうも韓国を追い越すような発展を実現することが困難になってきた。それに代わって、農業部門で大飛躍を起こすことによって、韓国民衆に強いインパクトを与え、共和国側の統一を達成しようという意図ないし願望が露骨に示されている。また、このことによって非同盟・発展途上国に効果的な影響を及ぼし、国際的にも支持を獲得して対南優位に立とうとする意図も汲み取られる。

だが、このような大事業を突然前面に出し、30万ヘクタール干拓は1988年まで、南浦閘門建設は1985年まで（他の2課題については目標年次なし）というように目標年次をかかげて、大々的に全党・全人民を総動員しようとするのは、第2次7カ年計画の遂行にも、重大な悪影響を与えかねない。これは、ある意味では、1973年から始まった「6カ年計画繰り上げ達成の運動」が、6カ年計画の

重大な中途変更の内容をもっていたのに匹敵するほどの計画中途変更の意味をもつ可能性がある。また、経済建設の混乱期と見なされる1976年に、突然「自然改造方針」が打ち出され(10月11～14日、朝鮮労働党中央委第5期第12回総会)、結局その総括すら為されなかったケースと似たものに終るのかも知れない。

11月16日の朝鮮中央通信は、各地の工場・企業所で今年度計画を繰り上げ完遂していることを報じたが、その内容は前記の上半期繰り上げ完遂事例よりも、はるかに貧弱で、また上半期の例との連絡性が全くない事例ばかり報道されている(詳細は日誌参照)。

また、12月7～8日に朝鮮労働党中央委政治局拡大会議が開かれ、1982年度に人民経済発展計画について討議決定している。しかし、この会議は、例年のように中央委総会の形をとらず、しかも李鍾玉総理の外遊中(12月2～12日、ネパール、バンガラデシュ訪問中)になされたという異常な形をとっている。報告者は洪成龍副総理兼国家計画委員長であるが、報告内容も決定事項も全く報道されていない。

この年末時期には、他に全国熱管理者大会(11月21～22日)、全国鉄道活動家大会(12月18～19日)も開催された。特に後者には、李鍾玉総理、玄武光政治局委員の他副総理5名が出席するという重要集会であったが、この2集会についても、内容の報道は全くない。

なお、年間を通じて完成・完工を報道された主要なものは次のとおりである。

- 8月3日 黄海南道に9.18貯水池完工
- 9月8日 咸興市に咸鏡南道体育館建設
- 9月16日 南浦造船所で1万4000トン級貨物船「長山」号進水
- 9月17日 咸興市に咸鏡南道口腔病予防病院建設
- 9月26日 平壤市に人民大学習堂完成(金主席視察)
- 10月12日 咸興市にモビロン工場建設、モビロン綿生産開始
- 10月18日 清津造船所で1万4000トン級貨物船「魚隠青年」号進水
- 12月6日 平壤市普通江畔に屋内アイススケー

ト場ビンサン館と大レストラン清流館建設(金主席視察)

このうち、生産的な性格のものは貯水池モビロン工場と2隻の貨物船であって、他は平壤市、咸興市の記念碑的建造物に集中している点が注目される。貨物船中「魚隠青年」号も、青年たちの金主席に対する「忠誠の贈物」と称されている。このような大記念碑的建造物としては、他にも平壤市にチュチェ塔、凱旋門、文繡通り、平壤第1百貨店、牡丹峰競技場拡張などが、82年4月の金主席生誕70周年行事までに完成するよう昼夜兼行で建設中である。こうした点も、経済建設に大きな支障を与えて、経済の不振を促進しているものと見られる。1982年1月1日の金主席「新年の辞」は、経済建設の成果について工業、農業とも数字を全くあげず、新年の課題として大自然改造事業を筆頭にあげ、工業面では化学工業、金属工業に重点を移している。このことは、81年の経済建設がいかに不振をきわめたかを示しているものといえよう。

対外関係

この年の共和国対外政策は、第6回党大会決定を貫徹するため次の重点を中心に活発に展開された。第1点は、高麗民主連邦共和国創立方案と10大施政方針支持の運動を世界的にひろげることにより、韓国を国際的に孤立させ南朝鮮革命を促進することであり、第2点は、非同盟・発展途上国を軸に先進国野党・友好運動レベルに積極的に働きかけることによって金正日書記の後継者化を国際的に権威づけようとするのであった。

(1) 自主的平和統一政策支持運動展開

共和国の自主的平和統一方針に対する支持獲得運動は、世界各国・各地域で精力的におし進められた。そのための大規模なイベントとしては、3月にアルジェでひらかれた第3回「朝鮮の自主的平和統一のための世界大会」および「高麗民主連邦共和国創立方案を支持する国際的署名運動」がある。後者の署名運動には、6月上旬には70余カ国、10余国際機構が参加して6億人の署名を集めたと報道され、12月段階では97カ国、10億人以上

の署名を集めたと報道されている。また、8月6日に祖国民主主義戦線中央委第67回会議が採択した「政党・大衆団体の連合声明」(23団体参加)は、「全斗煥のような民族反逆者」を排除したうえで「祖国統一の道を開く」ために、「北と南の政党・団体代表と海外同胞代表で構成される民族統一促進大会」を召集することを新たに提起した。このような構想の線に沿って、年間を通じ在外僑胞とくに在米、在欧、在日朝鮮人有力知識人に対する熱心な働きかけと、招待外交が展開された。その一つの集約として11月3～6日に、オーストリアのウィーンで「祖国統一のための北と海外の同胞、キリスト教徒間の対話」という催しが行われた。

さらに、ヨーロッパ、日本などに対しては、社会党、社民党などいわゆる進歩主義勢力に対する工作に力がそそがれている。フランスのミッテラン社会党党首、日本の飛鳥田社会党党首などの招待や、西ドイツ、オーストリア、北欧諸国、アラブ・アフリカ諸国などの社会民主主義諸政党・団体・人士に対する執拗な働きかけがなされた。とくに典型的だったのは、日本のケースである。飛鳥田訪朝の折に、朝鮮労働党・日本社会党間の「東北アジア地域非核・平和地帯創設に関する共同宣言」(3月16日)を協定・発表した後、きわめて多数の中央、地方の社会党ないし社会党影響下の労組・学者・文化人代表团やマスコミ関係者が、招待されて、共和国の統一方案支持運動、金正日後継者化肯定活動、北朝鮮「社会主義楽園」の美化運動の一翼をになわされることとなった。また、これらの運動は、韓国の全斗煥政権を「軍事ファシスト」「民族反逆者」「民族屠殺者」「米帝のかいらい一味」等々として、徹底的に糾弾し、その断罪と打倒をはかる言論・運動と表裏になって進められており、そのシンボルとなっているのは依然として、金大中氏であり、光州騒乱事件であり、学生の反政府闘争である。

(2) 世襲後継者化の国際的権威づけ

金正日後継者化運動については、本稿「国内政治」の項でも概略をのべたが、本人の国内における信望に欠けるところがあるためか、まず国外における支持表現を先行させることによって、国内を納得させようとする戦術をとっているように見

える。日本人の言論がそのための大きな要素となっていることは前記のとおりであるが、その他にも、次のような方策が論じられた。

3月26～28日の前記アルジェ「朝鮮の自主的平和統一世界大会」では、会場に「金日成主席と親愛なる金正日同志と一緒におられる写真」がかかげられた。7月4日になると、朝鮮中央通信アルジェ発の報道で、アルジェリアでチュチェ思想国際研究所理事会第4回会議決議支持のマダガスカル留学生集会の参加者が「敬愛する金日成主席とチュチェ事業の継承者であり、朝鮮革命の指導者である金正日書記の万年長寿を祝った」という表現が登場する。これ以降、共和国を訪問する各国政府、党、団体代表团や人士の公式発言として、金主席とならべて「金正日書記の卓越した指導」や「功績」「風格」を賞賛し、その「万年長寿」「健康」「活躍」等を祈ることばが、頻々と報道されはじめる。ついに、11月19日に朝鮮中央通信は、「親愛なる金正日書記を偉大な指導者に戴いた朝鮮の未来は明るい＝訪朝外国人の反響」「親愛なる金正日書記はチュチェの革命偉業を輝かしい勝利に導く英明な指導者＝各国人民の反響」という2特集記事を報道し、ついで12月1日には「親愛なる金正日書記をチュチェ思想の継承者として戴いた朝鮮人民は幸福である＝各国人民の反響」という記事をかけた。これらは、訪朝外国人士や、各国人民がこぞって金正日書記を礼讃し支持しているという猛烈なプレス・キャンペーンである。その一部の例を紹介してみよう。

「バングラデシュ民族主義・青年戦線副委員長は集会で(中略)次のように語った。

わたしは、アジア青年のひとしい念願をこめて朝鮮青年運動の卓越した指導者である金正日書記をアジア青年の団結と連帯を実現させるアジア青年運動の指導者として推戴したい。

親愛なる指導者金正日書記は、朝鮮とアジアの星であるばかりでなく、新興勢力諸国、第三世界諸国青年の希望の星である。」(前記、朝鮮中央通信11月19日発記事)

「ニカラグア文化省国際事業所長オリンピア・ブリセニョ・デ・エスピノサ氏は次のように述べた。

親愛なる金正日書記を戴くことは朝鮮人民の

みならず、われわれみな栄光であり、誇りである。尊敬する指導者同志は、金日成主義偉業の英明な継承者として世界に光を放っている。」

(前記、朝鮮中央通信12月1日記事)

11月に中国の政府、党首脳が、金正日書記の名を初めて公式にあげたことにより、後継者化についての国際的権威づけ工作は、ほぼ目的を達したもののようである。

他に、この年大規模な国際会議として平壤で開催されたものに、非同盟・発展途上国食糧・農業増産討論会(8月26～31日、81カ国・13国際機構代表参加)と朝鮮社会主義労働青年同盟第6回大会(10月20～24日、130カ国・184代表団参加)の二つがあげられる。この二大会議においても、金正日書記の指導が重要な役割を果たしたと印象づけるように報道されている。特に後者の社労青大会では、金正日書記が金主席に次ぐ第2位の序列で主席壇につき、公然とその地位を内外にアピールした。

(3) 国際的難関の台頭

この年活発に展開された外交活動の成果として、タンザニアのニエレレ大統領(3月)、トーゴのエヤデマ大統領(9月)、PLOのアラファト議長(10月)、アンゴラのサントス大統領(10月)、ウガンダのオボテ大統領(12月)、中国の趙紫陽首相(12月)などの国家元首・首班クラスの人物が訪朝したほか、ザイル大統領特使バンジャンボ巡回大使(4月)、ポルトガル前大統領ゴメス(7月)、ベニン大統領特使アズイウ公報・宣伝相(7月)、イラン国会議長ラフサンジャニ(9月)などの重要人物が訪朝している。また、レバノン(2月12日外交関係樹立)、セントビンセント・グレナディーン(4月3日外交関係樹立)、ペリセ(9月20日承認)、バヌアツ(10月1日外交関係樹立)、アンティグア・バーブーダ(11月2日承認)の5カ国と国家関係を結んだ。これにより、共和国は世界106カ国と外交関係をもつようになった。

だが、このような一見輝かしい成果の反面、共和国の国際政策が、大きな困難に逢着しつつあることも事実である。

まず、第6回党大会決定で、国際政策の中心軸として設定した非同盟諸国が、内部対立等のあおりで、必ずしも共和国支持でなくなりつつあるこ

とがあげられる。すでに80年12月にリビアが韓国と外交関係を樹立したが、その後もナイジェリア、スワジランド、ガーナ、リベリア、ケニア、スリナム等の諸国が、韓国との経済協力に意欲を見せ、9月には、イラクが韓国と総領事館外交関係を結んだ。6月の全大統領 ASEAN 5カ国歴訪のさいには5カ国とも韓国の外交・統一政策を支持する態度を表明した。そして、ついに9月末の国際オリンピック委員会総会で、88年オリンピックをソウルで開催することが、圧倒的多数で可決され、12月にバグダッドで開かれた非同盟労働相会議には、韓国労働部長官が初めて招請されるまでになった。

こういう非同盟の動揺を背景に、まず2月のニューデリー非同盟外相会議においては、共和国は朝鮮問題上程を事前に放棄せざるをえなくなった。さらに11月30日、金主席が職総第6回大会で行なった演説においては、従来強調してきた「支配勢力」反対の表現は姿を消し、「非同盟運動」についても一言もふれられないこととなった。代わって「帝国主義」とたたかうために、「国際革命勢力」を強化し、「国際革命勢力」との連帯・団結・協力を強化することが、全面的に強調されている。これは、国際路線で、ふたたび重大な転換が行なわれ始めた兆候ともいえよう。中国が12月末になって、急きょ趙紫陽首相を平壤に送ったのも、このことと関連があるかも知れない。

また、2月に共和国に招いたフランスのミッテラン社会党首が、5月に大統領選挙で勝利したことを、共和国は大いに歓迎した。ところがミッテラン政権は、成立後むしろ韓国との関係強化の道を歩んでいる。これも、共和国外交にとっては大きな打撃を意味する。またヨーロッパで最重要問題となっていたポーランド問題については、年内は一回も公式に報道せず、82年1月6日によく『労働新聞』が編集局論説で、戒厳令宣告を「非正常」で「残念」なこととしながらも、アメリカ CIA につながる「反革命分子」の台頭をゆるした「修正主義政策」の結果であるとの評価を下し、「人民政権と社会主義制度を守るため」の努力のあらわれとして支持の態度をとるに至っている。

1 月

1日 ▶金日成主席、1981年「新年の辞」を発表——(1)80年の工業総生産高は前年の117%に増大、穀物生産は最高収穫年度である79年水準に到達。(2)81年は「総進軍開始の年」(スローガン「朝鮮労働党第6回大会の決定貫徹のために総進軍しよう!」)。(3)今年度経済建設の基本方向は「第2次7カ年計画をくりあげて完遂する一方、社会主義・経済建設の十大展望目標を実現するための準備を立派に整えること」である。(4)今年の課題は、「人民経済各部門で技術革新運動を強力にくりひろげ、あらゆる潜在力と可能性をことごとくさがしだして生産を高い水準で正常化し、消費物資を大幅に増産して人民生活を一段と向上させる」とともに「十大展望目標を実現する具体的な計画を樹立し、見通しをもってその準備を進め」ることである。(5)電力工業を最優先し、採掘工業を加工工業に優先させる。加工工業部門では、設備管理と生産組織を改善し、連帯生産規律を厳格にたてること、輸送部門では、輸送組織と指導を改善し規律と秩序を確立することが重要。農業部門では、今一度950万トンの穀物生産目標を達成する、など。

2日 ▶労働新聞社「偉大な指導者金日成主席が新年の辞で示した戦闘的課題を徹底的に貫徹しよう」

3日 ▶労働新聞論説「20世紀最大の暗黒裁判」で金大中事件の真相を暴露。

6日 ▶タイ王国駐在大使に李成浩を任命。

8日 ▶朝鮮中央通信、平壤市に10階建ての平壤第一百貨店を建設中と報道。

9日 ▶労働新聞社「朝鮮労働党第6回大会の決定貫徹のために総進軍しよう」

10日 ▶李鍾玉政務院総理一行中国訪問。金敬連副総理、鄭松男対外経済事業部長、趙奎一外交部副部長、李世応貿易部副部長ら同行(14日ビルマ訪問、17日帰国)。

▶朝鮮・チェルニヤ共和国間貿易協定調印(於、チェニス)。

12日 ▶中国鄧小平副主席、李総理と会見(中国側、陳慕華副首相、韓竜念外務次官、呂志先駐朝大使参加)。

14日 ▶李総理一行、ビルマ社会主義共和国友好訪問。ネ・ウィン大統領と会見。

15日 ▶朝鮮中央通信、各地勤労者が集会をもち、10月10日までに今年度計画を遂行する社会主義競争をよびかけたと報道。

▶李総理、ビルマのマウン・マウン・カ首相と会談。

16日 ▶朝鮮社会主義労働青年同盟創立35周年記念中央

報告大会開催(於、平壤、2・8文化会館〜17日)、金一副主席祝賀文伝達、李英洙社労青委員長記念報告、李国詰南朝鮮青年組織代表祝賀演説。

▶朝鮮・カメルーン連合共和国貿易協定締結(於、ヤウンデ)。

17日 ▶金主席、社労青創立35周年中央報告大会第2日目会場に赴き祝賀。

▶労働新聞論説「朝鮮青年運動が歩んできた誇らしい路程」。

▶李総理一行、特別機で帰国。

▶朝鮮労働党代表団(団長、金永南党中央政治局委員・書記)ペルーへ出発(20日リマ着、2月2日帰国)。

19日 ▶金一祖國平和統一委員会委員長声明を発表し、韓国全斗煥大統領の「南北最高責任者相互訪問提案」をきびしく非難。全が「大統領」になったのは全く不法でわれわれのつき合う相手ではない。殺人の頭目、民族屠殺者である。

▶朝鮮中央通信、化学工場の新建設成果、発展する鉄鋼業について報道。

20日 ▶労働新聞編集局論説「わが党の指導のもとに三大革命の遂行で達成した偉大な勝利」で、「三大革命グループ運動」を強く再評価、「党と指導者を断固として擁護保衛」することを訴える。

21日 ▶労働新聞論説「殺人者と席を共にできない」で、全斗煥を「逆徒」「逆賊」「民族屠殺者」等と糾弾。

22日 ▶労働新聞論説「凶悪な企図をさらけだした妄言」で米ヘイグ國務長官の「南侵の脅威」発言を糾弾。

26日 ▶労働新聞、金大中の無罪釈放を要求する論評。

▶ハンガリー人民共和国政府貿易代表団(団長、ヘルクネル・オットー貿易次官)平壤着。

▶朝鮮中央通信解説「貴重な民族文化遺産『李朝実録』」社会科学院民族古典研究所訳の原稿90万枚、数百巻を近く刊行予定。

27日 ▶16社会団体連合声明、金大中をはじめ各界人士に不法な刑罰を科した全斗煥一味を糾弾。

▶朝鮮労働党代表団(団長、金勇淳中央委員)ユーゴスラビアへ出発。

28日 ▶朝鮮民主党第6回大会開催。「朝鮮社会民主党」と改称し、新綱領採択、新中央指導機関選出。

29日 ▶全国品質管理活動家大会開幕(〜30日)。

30日 ▶朝鮮の自主的平和統一のための国際連絡委執行委拡大会議開幕(於、ベオグラード、〜31日)。

31日 ▶イエメン・アラブ共和国駐在大使に徐正元任命。

▶朝鮮農業労働者同盟創立35周年中央報告会開催。

2 月

1 日 ▶朝鮮・ハンガリー人民共和国間1981年度商品流通・支払協定調印（於、平壤）。

2 日 ▶金主席、全国品質管理活動家大会参加者と会見。

▶金主席、道・市・郡人民会議代議員選挙実施に関する最高人民会議常設会議決定を公布（3月5日実施）。

3 日 ▶朝鮮・パキスタン・イスラム共和国間1981～82年度文化交流計画書調印（於、平壤）。

▶労働新聞論評「尋常でない軍事騒動」で、「チーム・スピリット'81」演習を糾弾。

4 日 ▶朝鮮・インド共和国間農業関係協力一般議定書調印（於、ニューデリー）。

▶労働新聞論評「主人と手先の醜い結託」で、レーガン・金斗煥「共同声明」を糾弾。

5 日 ▶人民共和国代表団（団長、許欽副総理兼外交部長）非同盟諸国外相会議参加のためニューデリーに出発（～14日帰国）。

▶朝鮮中央通信、西部地区鉱山の成果を報道。

6 日 ▶労働新聞論説「非同盟運動は必勝不敗である」。

7 日 ▶金主席、非同盟諸国外相会議に祝電。

▶ニューデリーで人民共和国代表団記者会見、今回会議に朝鮮問題を提起しない理由を説明。

8 日 ▶労働新聞論説「民族の統一念願をもてあそぶ分裂主義者の卑劣な行為」で「トップ相互訪問案」を非難。

▶天道教青友党創立35周年記念中央報告大会開催。

9 日 ▶非同盟諸国外相会議開幕（於、ニューデリー、～13日）、許欽副総理兼外交部長、金主席の祝電伝達、祝賀演説（参加90余国）。

▶朝鮮中央通信、干潟地造成事業の成果を報道。

10 日 ▶政府貿易代表団（団長、崔貞根）中国へ出発。

▶「白頭山賞」体育競技大会開幕（～3月1日）。

▶祖国平和統一委声明で、「チームスピリット'81」演習を糾弾。

▶統一革命党中央委公開書簡「すべての南朝鮮人民に訴える」で、金斗煥一味の欺瞞的な「選挙芝居」を粉碎し民主政権を建立するための愛国聖戦を力強く展開しようと呼びかけ。

11 日 ▶労働新聞論評「予め仕組まれた脚本」で韓国大統領選挙を糾弾、金斗煥は「処断されるべき人物のくず」と裁断。

12 日 ▶朝鮮・レバノン共和国大使級外交関係樹立の共同報道文発表。

▶金主席、ジンバブエ共和国首相特使K.M. カンガイ労働・社会福利相を接見（吳克烈、金在奉同席）。

▶全国技術革新創案品展示会開幕（於、平壤、中央労働者会館、～3月末）2530種、6579点を展示。

13 日 ▶軍事停戦委第405回会議を北側申入れて開催（於、板門店）。韓庚柱首席委員「チームスピリット'81」演習に抗議し中止を要求。

▶朝鮮・モンゴル人民共和国間1981～85年商品相互納入・支払協定調印（於、平壤）。

▶労働新聞論説「三大革命グループ運動は三大革命をさらに組織化、積極化する威力ある革命指導方法」。

14 日 ▶フランス社会党フランソワ・ミッテラン党首平壤着（～15日）。

▶金主席、ミッテラン党首を接見（金永南、廉国烈社民党副委員長ら同席）、夜、歓迎宴開催。

▶労働党中央委、南浦ガラス工場の労働者、技術者、事務員、三大革命グループに祝賀文伝達（於、南浦）。

15 日 ▶金主席、ミッテラン党首と会談。

▶滞朝中のシアヌーク親王、ミッテラン党首と会見。

▶社会主義国青少年親善国際スピードスケート大会開幕（於、両江道三池淵スケート競技場、～17日）、民主ドイツ、ルーマニア、ハンガリー、チェコスロバキア、ポーランド、ソ連、朝鮮の選手団参加（注：2月16日は金正日の生誕日、三池淵は最近金正日の生誕聖地とされている）。

18 日 ▶朝鮮中央通信、安州地区炭鉱連合企業所の石炭増産を報道。

19 日 ▶朝鮮中央通信、金主席が在日同胞に教育援助費・奨学金4億7300万円（日本円）を送ったと報道（累計79回、303億4482万733円）。

▶労働党中央委政治局・人民共和国中央人民委員会連合会議開催。非同盟諸国外相会議参加代表団の報告を聴取、金主席結論を述べる。

▶労働新聞論説「レーガンは分別のある行動をとらなければならない」で、レーガンの戦争政策は「任意の時刻に朝鮮半島で戦争を引き起こす可能性がある」と糾弾。

21 日 ▶朝鮮労働党代表団（団長、李鍾玉）ソ連共産党第26回大会参加のためモスクワへ出発（金永南、姜希源、吉在景ら同行、～3月6日）。

23 日 ▶3.1人民蜂起62周年平壤市記念報告会開催。

24 日 ▶労働新聞論説「かいらい逆従は処断さるべき人民屠殺者・売国奴である」。

25 日 ▶労働新聞論説「朝鮮とアジアの平和を脅かす無謀な火遊び」で「チームスピリット'81」演習を糾弾。

▶統一革命党中央委声明「逆賊金斗煥の“当選”は無効」。

28 日 ▶労働新聞論説「殺人者を後押しする共謀者」で日本当局と日本反動を非難。

3 月

1 日 ▶労働新聞社説で3・1 人民蜂起62周年を記念。

4 日 ▶土地改革法発布35周年中央報告会開催。

5 日 ▶道・市・郡人民会議代議員選挙実施。正午現在で登録選挙者100%参加。午後8 時終了100%賛成投票。

▶金主席は、平安南道第77分区投票場で投票。

6 日 ▶朝鮮中央通信、選挙に参加した党・政府最高幹部20名を報道（金正日の名はなし）。

7 日 ▶平壤各紙、地方主権機関代議員選挙に関連して社説を掲載。

8 日 ▶労働新聞論説「米帝は世界平和のかく乱者」。

9 日 ▶スウェーデン王国外務省代表団（団長、レナード・エケベルグ外務省政治局長）平壤着（～13日）。

10 日 ▶政府貿易代表団（団長、崔貞根貿易部長）エジプト・アラブ共和国訪問のため出発（～23日帰国）。

▶労働新聞社説「党員と勤労者を不屈の反帝闘争精神で武装させよう」。

11 日 ▶朝鮮中央通信、記録映画「慈愛深い党の懷で再び得た生」の制作を報道（不慮の事故でひん死の記者が「栄えある党中央のあたたかい配慮」で意識回復・完治）。

▶朝鮮・エジプト・アラブ共和国間1981年度商品流通に関する議定書調印（於、カイロ）。

12 日 ▶米帝と南朝鮮かいらい一味の新たな戦争挑発策動を糾弾する平壤市群衆大会開催（於、2.8文化会館）。

▶労働新聞論説「米帝は朝鮮の平和を脅かす戦争狂信者」。

▶朝鮮中央通信、記録映画「代を継ぐ忠誠の隊伍」制作を報道。

▶朝鮮中央通信、住宅の大々的建設と電力生産の躍進を報道。

13 日 ▶日本社会党代表団（団長、飛鳥田一雄委員長）平壤着（～17日）。

▶金主席、日本社会党代表団と会見（金永南、尹基福、玄峻極同席、夜、錦繡山議事堂で招宴。飛鳥田委員長「主席のもっともよき同志であり、チュチェ偉業の継承者であられる金正日書記の御健康と御活躍を深く祈念」と演説（本年最初の金正日名報道）。

14 日 ▶金主席、飛鳥田委員長と会談。

▶労働新聞短評「“リュマニテ”紙は何故驚きを表明するのか」で、民主カンボジア政府キュー・サムファン首相の訪朝に関する“リュマニテ”記事に抗議。

▶モザンビーク・朝鮮友好メンガーレワ灌漑第一段階通水式挙行（於、モザンビーク、カゴ・デルガト州）。

15 日 ▶米帝と南朝鮮かいらい一味の新戦争挑発策動を糾弾する開城市群衆大会開催。

▶朝鮮民主法律家協会「世界の法律団体と法曹人士に送る手紙」で、金大中の無罪釈放と権利回復のための運動を力強く展開することを期待するとアピール。

16 日 ▶朝鮮労働党と日本社会党間の東北アジア地域非核・平和地帯創設に関する共同宣言発表。

▶米帝と南朝鮮かいらい一味の新戦争挑発策動を糾弾する海州市群衆大会開催。

▶朝鮮・チェコスロバキア間科学技術協力常設分科委第22回会議議定書調印（於、プラハ）。

▶朝鮮中央通信、各地農村で稲の冷床種まき始まると報道。

17 日 ▶米帝と南朝鮮かいらい一味の新戦争挑発策動を糾弾する沙里院市群衆大会開催。

18 日 ▶労働新聞論評「危険な火遊び」で、南朝鮮浦項一帯における米帝の「双竜14」上陸作戦訓練を糾弾。

20 日 ▶米国連合長老教会姜恩興牧師、平壤着（～31日）。（注、以後在米朝鮮知識人の招待工作を展開）。

▶朝鮮・ニカラグア共和国政府間経済・科学技術協力協定調印（於、マナグア）。

22 日 ▶共和国代表団（団長、金永南党中央政治局委員・書記）朝鮮の自主的平和統一のための世界大会参加のためアルジェリアに出発（～マルタを経て4月3日帰国）。

▶労働新聞論説「ファッショ支配の地盤を強化する仮面劇」で韓国の“国会議員選挙”を糾弾。

▶在北平和統一促進評議会、韓国“国会議員選挙”に関連し「南朝鮮の各党・各派・各界人士に送る手紙」。

24 日 ▶米国西ワシントン総合大学教授金燭賛博士、平壤着（～4月3日）。

▶朝鮮中央通信、熙川工作機械工場の活動を報道。

26 日 ▶アルジェで「朝鮮の自主的平和統一のための世界大会」開幕（～28日）。会場には「偉大な金日成主席と親愛な金正日同志と一諸におられる写真」を掲掲。80カ国、18国際機構の党・政府・団体126代表団等、205人参加。

▶タンザニア連合共和国ジュリアス・ニエレレ大統領一行、平壤着（～30日）。

28 日 ▶金主席、ニエレレ大統領と会談。

▶朝鮮工業技術総連盟第3 回大会開催。

29 日 ▶全国科学者・技術者大会開幕（～31日）。

▶全国文化芸術人熱誠者大会開幕（～4月1日）。

30 日 ▶金主席、タンザニアに7000トンのトウモロコシを贈る。

▶ニエレレ大統領帰国にさいし、朝鮮・タンザニア共同コミュニケ発表。

31 日 ▶朝鮮中央通信、3月7～30日の間に道・市・郡人民会議第1 回会議を開催、地方幹部選出と報道。

4 月

1 日 ▶朝鮮労働党中央委第 6 期第 3 回総会開催（～2 日）——議案「大安の事業体系を徹底的に貫徹し、工場の管理運営をいっそう強化することについて」延亨熙政治局委員・書記報告を審議、決定を採択。

▶朝鮮中央通信、茂山鉱山の例をあげ鉱山の改造拡張工事の進展を報道。

2 日 ▶人民保健法発布 1 周年中央記念報告大会開催（平壤、人民文化宮殿）、朴明彬保健部長記念報告。

▶朝鮮労働党代表団（団長、金敬連）チェコスロバキア共産党第 16 回大会参加のため出発（～13 日帰国）。

3 日 ▶労働新聞社説「朝鮮の自主的平和統一は必ず勝利する」——アルジェ世界大会に関連。

▶朝鮮・セントビンセント・グレナディーン間外交関係樹立・外交代表交換に関する共同コミュニケ発表（於、キングスタウン）。

5 日 ▶労働新聞、保健節にさいして社説「わが国人民保健制度の優越性をいっそう高く発揚させよう」。人民の寿命は解放前より 35 年ものび 73 歳に達していると指摘。

6 日 ▶最高人民会議第 6 期第 5 回会議閉幕（～8 日）——議案「朝鮮民主主義人民共和国 1980 年度国家予算執行の決算と 1981 年度予算について」尹基貞財政部長報告。

7 日 ▶朝鮮・中国政府間 1991～82 年度文化交流計画書調印（於、北京）。

▶朝鮮労働党代表団（団長、金煥）ドイツ社会主義統一党第 10 回大会参加のため出発（～20 日帰国）。

▶日本社会民主連合代表団（団長、田英夫代表）平壤着（～14 日）。

8 日 ▶最高人民会議第 3 日目——決算承認決定と予算法令を採択。閉幕。

▶朝鮮中央通信、果樹業の成果を報道。果樹面積 30 万ヘクタール、解放前の 25 倍以上を生産。

9 日 ▶金日成元帥生誕 60 周年に日朝鮮人祝賀団（団長、韓徳銓総連議長）平壤着（～5 月 6 日）。

10 日 ▶朝鮮労働党中央常務委北青拉大会議 20 周年記念報告会開催（咸鏡南道北青郡文化会館）尹基福政治局委員候補・書記記念報告。果樹業の発展を総括。

▶朝鮮・中国国境地域におけるテレビ放送と短波放送業務の使用周波数に関する協定、朝鮮通信部と中国中央放送事業局間に調印（於、北京）。

▶労働新聞編集局論説「敬愛する金日成同志はわが民族の運命を輝かしく切り開く偉大な指導者」。

12 日 ▶剣徳鉱山で、新しい垂直坑と補助垂直坑建設完了。操業式挙行。鉱石運搬作業開始。

13 日 ▶金主席、韓徳銓総連議長を接見（金仲麟同席）。

▶ベニン人民革命党代表団（ガド・ギリジス政治局員、公共事業・建設・住宅相）平壤着（～25 日）。

14 日 ▶朝鮮・ジンバブエ政府間文化協力協定調印（於、ソールズベリー）。

▶朝鮮代表団（団長、趙奎一）、非同盟諸国調整委緊急会議（アルジェリア）参加のため出発（～25 日帰国）。

▶イラン・イスラム共和国農業代表団（イスマイル・サイリミ灌漑委技術部責任者）平壤着。

15 日 ▶朝鮮中央通信、金主席が在日同胞に 4 億 6500 万円（日本円）の教育援助費と奨学金を送ったと報道（80 回、累計 308 億 982 万 7033 円）。

▶朝鮮少年団連合団体大会開催（赤旗万景台革命学院）。

▶金主席をノロドム・シアヌーク親王夫妻祝賀訪問（生誕 69 周年）主席夫人、金一、呉振宇、李鐘玉、朴成哲、呉白龍同席。

▶平壤市青年学生の忠誠の歌の集い開催（牡丹峰青年公園夜会劇場）。平壤市勤労者の夜会開催（各広場）。

17 日 ▶ガイアナ協同共和国党・政府代表団（団長、B. ケミ・ラムサルブ人民民族会議委員長・副大統領）平壤着（～28 日）。

▶ブルンジ共和国政府代表団（団長、E. スザンビマナ外務・協力相）平壤着（～23 日）。

18 日 ▶労働新聞社説「社会主義労働法を徹底的に貫徹しよう」——同法発布 3 周年にさいして。

19 日 ▶朝鮮人民の 4 月蜂起 21 周年記念平壤市報告会開催（平壤、牡丹峰劇場）李英洙社労青委員長記念報告。

21 日 ▶金主席、ガイアナ党・政府代表団を接見。

23 日 ▶金主席、中国新華通信社代表団を接見。

▶チェコスロバキア社会主義共和国政府代表団（団長、ルドルフ・ロフリチェーク副首相）平壤着（～28 日）。

24 日 ▶朝鮮人民軍創建 49 周年記念中央報告大会開催（平壤、2.8 文化会館）金江煥中將記念報告。——朝鮮では任意の時刻に戦争がほっ発しかねない緊迫した情勢。

25 日 ▶金主席、人民軍張景済同志所屬区分隊を訪問。

▶金主席、妙香山地区を参観——国際友好展覽館、妙香山旅館、妙香山土産物売場、妙香山文化遺跡。関係者活動家会議を召集（金正日書記ら同行）。

▶「万景台」賞国際マラソン大会開催。インド、ハンガリー、チェコスロバキア、ソ連、朝鮮選手参加。

27 日 ▶朝鮮・チェコスロバキア政府間経済・科学技術協議会第 4 回会議議定書調印（於、平壤）。

29 日 ▶ザイール共和国大統領特使モブツ・ニワ・バンジャンボ巡回大使平壤着（～5 月 1 日）。

30 日 ▶金主席、ザイール大統領特使を接見。

▶バングラデシュ民族主義党代表団（団長、エクラムル・ハク全国常務委員）平壤着（～5 月 9 日）。

5 月

1日 ▶労働新聞社説「国際的団結の旗を高く掲げて革命を最後まで完遂しよう」——メーデーにさいして。

▶メーデー祝賀催し物（綾羅島遊園地）、メーデー慶祝平壤市勤労者の夜会（金日成広場）開催。

4日 ▶朝鮮中央通信、先頃ガイアナで、朝鮮の協力で建設されたオンバーワット灌漑工事竣工式挙行と報道。

▶祖国光復会創建45周年記念中央報告会開催（平壤大劇場）、朴成哲副主席記念報告。

5日 ▶金主席、平安南道江東郡下里協同農場を現地指導。短期間に100ヘクタールの段々畑造成に満足の意。

▶人民軍警備艇、軍事境界線内に侵入した日本漁船、「第35幸福丸」「第33幸福丸」を捕獲。

6日 ▶朝鮮労働党代表団（団長、金永南）ポルトガル社会党第4回大会参加のため出発（～ベオグラード経由17日帰国）。

7日 ▶金主席・バングラデシュ民族主義党代表団を接見（金敬連副総理、俞英傑党中央委副部長同席）。

9日 ▶捕獲日本漁船「第35幸福丸」「第33幸福丸」を人道的に許し、乗組員と共に送還。

▶祖国統一民主主義戦線中央委員会、祖国平和統一委員会、世界各国の政党・社会団体と各界人士に書簡を送り、金大中救出運動の拡大をアピール。

12日 ▶金主席、ザンビア統一民族独立党代表団を接見。

▶朝鮮労働党中央委、朝鮮社会民主党委員長、フランスのミッテラン大統領当選にさいし祝電を送る。

▶中国人民解放軍友好参観団（団長、伍修権副総参謀長）平壤着（朴重国中将、尹致浩中将、李斗賛中将出迎え）（～26日）。

▶祖国平和統一委員会結成20周年記念報告会開催（平壤、2.8文化会館）、尹基福副委員長記念報告。

13日 ▶労働新聞論評「フランス人民勢力の歴史的勝利」

14日 ▶金主席、ペルー人民行動党活動家代表団を接見。

▶金主席、在日同胞短期祖国訪問団の三つ子姉妹と母親に贈物をおくる。

16日 ▶朝鮮中央通信、全国で田植えとトウモロコシ栄養つば移植がたけなわと報道（前年より1週間早い）。

17日 ▶南朝鮮軍事ファシスト一味の光州大虐殺蛮行を糾弾する平壤市民大会開催（金日成広場）。10万人集まり、尹基福副総理演説。南朝鮮人民に送るアピール採択。デモ（咸興市、海州市、開城市でも同様集会）。

▶清津造船所で1万4000トン級貨物船「チブサム」号進水。

18日 ▶労働新聞社説「英雄的光州人民蜂起は反ファシズム民主化闘争史に末長く輝くであろう」。

▶朝鮮・ドイツ民主共和国政府間文化・科学協力に関する1981～82年度事業計画書調印（於、平壤）。

19日 ▶朝鮮・キューバ科学院間1981～82年度科学協力に関する事業計画書調印（於、平壤）。

▶南朝鮮漁船「第2ナムジン」号船員を元山より送還。

▶朝鮮労働党代表団（団長、楊亨燮中央委員）フィンランド共産党第19回大会参加のため出発（ドイツ共産党第6回大会にも参加し6月11日帰国）。

20日 ▶アルバニア社会主義人民共和国駐在大使に任公洙を、ソマリア民主共和国駐在大使に金福万を任命。

21日 ▶平壤各紙、主席が大自然改造事業の最初ののろしをあげた日から35周年を記念して社説掲載（1946年5月21日普通江改修工事着工式）。

22日 ▶金主席、南浦市内人民経済各部門現地指導（～23日）。新計画開門の位置、南浦精錬所、臥牛島遊園地等を視察し関係部門幹部協議会を招集、綱領的教示（南浦開門建設着工日を81年5月22日、完工日を84年5月22日）

▶ルワンダ国家開発革命運動代表団（ボナバンチュール・ハビマナ書記長）平壤着。

23日 ▶金主席、南浦市内現地指導第2日目、大安重機械総合工場を視察、関係部門幹部協議会開催。

▶金主席、中国人民解放軍友好参観団（伍修権）を接見（呉克烈、朴重国、尹致浩同席）。

▶中国人民解放軍友好参観団メンバーに勲章とメダル授与（伍修権に自由独立勲章第1級、曹里懷空軍副司令官に国旗勲章第2級）。

24日 ▶金主席、ルワンダ国家開発革命運動代表団を接見（朴成哲、金永南、鄭松男、李和善同席）。

26日 ▶全国的にトウモロコシ植え基本的に終了。

▶ユーゴスラビア社会主義連邦共和国ヨシップ・ブルホベッチ外相、平壤着（～29日）。

27日 ▶許鎔副総理兼外交部長、ブルホベッチ外相と会談。

28日 ▶金主席、ブルホベッチ外相を接見（許鎔、李宗木同席）。

▶党中央委「沈昌完同志の死去に関する訃告」発表（党中央委員79位、社会安全部政治局長、50歳）。

▶全国的に田植え基本的に終了。

29日 ▶沈昌完同志霊前で、党・政府指導幹部哀悼の意表明（金正日、呉振宇、金永南、姜成山、許鎔、鄭敬姫、徐允錫ら）。

30日 ▶共和国政府代表団（団長、桂応泰副総理）インドネシア訪問のため出発（マレーシアも訪問し6月15日帰国）。

31日 ▶幼稚園児の芸術サークル総合公演開催（平壤、学生少年宮殿）。

6月

1日 ▶金主席、宋慶齡の死去に哀悼の意を表し中国大使館に花輪。党・政府幹部ら弔問。

▶金日成高級党学校創立35周年記念報告会開催。

2日 ▶朝鮮中央通信、最近鴨緑江灌漑水補充工事（平安北道）完工と報道。

▶中国甘肅歌舞団（団長、王仲万対外文化連絡委主任）平壤着（平壤、清津、咸興、元山で公演～7月2日）。

4日 ▶普天堡戦勝勝利44周年記念両江道報告会開催（於、普天堡）、林秀満党両江道責任書記記念報告。

▶『民主朝鮮』紙創刊35周年記念報告会開催（平壤、牡丹峰劇場）、林春秋、鄭浚基、許貞淑ら参加。

5日 ▶金主席、朝鮮少年団創立35周年にさいし、祝賀文「朝鮮少年団員はチュチェ革命偉業の後続部隊にしっかりと準備しよう」をおくる。

▶金亨稷先生逝去55周年にさいし、党政府幹部、金亨稷先生、康盤石女史の墓に花輪を献げる。金亨稷先生逝去55周年平壤市追悼会開催（平壤大劇場）。

6日 ▶朝鮮少年団創立35周年記念中央報告開催（平壤、2.8文化会館）、李英洙記念報告。誓いの手紙採択。

8日 ▶金主席指導下、朝鮮労働党清津市委、咸鏡北道委連合拡大総会開催——金主席会議に先立ち長期にわたり、清津市と咸鏡北道内の単位を直接視察、現地で10余回にわたる部門別協議会を招集。結語中で、鋼鉄工業先行政策と金策製鉄所的重要性を指摘、76年から5年間で砂原に現代的大鋼鉄基地が雄大に建設されたと述べた。

▶西ドイツにある祖国統一海外キリスト教会李華善会長ら平壤着（～16日）。

▶アラブ社会主義復興党代表団平壤着（～16日）。

▶ペルー人民行動党代表団平壤着（～16日）。

9日 ▶金主席、中国甘肅歌舞団公演を観覧。

▶党・政府代表団（団長、李鍾玉総理）タンザニア、ジンバブエ、マダガスカル訪問に出発（～28日帰国）。

▶全国油脂作物青年分組熱誠者会議開催（於、平壤）。

10日 ▶非同盟諸国食糧農業部門調節節第2回会議開幕（於、平壤～12日）、9加盟国、8参加国、1国際機構代表参加。

▶党・政府代表団（団長、朴成哲副主席）ギニア、トーゴ訪問のため出発（ベニンも歴訪し～26日帰国）。

11日 ▶労働新聞論説「民族反逆者は“政権”の座から退け」。民主朝鮮紙論説「人間屠殺者とは対話をする事ができない」。

12日 ▶労働新聞論説「農業問題の解決は新社会の建設で第一義的に提起される課題」。

13日 ▶朝鮮中央通信、高麗民主連邦共和国創立方案を

支持する国際的署名運動に、70余カ国、10余国際機構から6億の各界人士と人民が参加したと報道。

▶朝鮮中央通信、機械設備の生産増大を報道（5月に機械工業部は計画を6.6%超過遂行）。

14日 ▶金主席、アラブ社会主義復興党代表団を接見。

16日 ▶モルディブ共和国政府代表団（団長、アフメド・ヒルミ・ディディ農業相）平壤着（～19日）。

18日 ▶金主席、モルディブ政府代表団を接見。

▶総連群馬県商工会副会長崔景植と息子に勲章授与（国旗勲章第1級と第3級）。

▶金聖栞在米祖国統一促進会会長・韓国人教会連合会顧問・元崇田大学総長平壤着（～7月7日）。

19日 ▶午前11時42～50分に米高速高空偵察機SR71が高城東方領海上空深く侵入しスパイ行為強行。

20日 ▶労働新聞論説「民族屠殺者は人民の裁きを受けて処断されなければならない」。

21日 ▶各地共産大学で大学創立35周年記念報告会。

22日 ▶崔徳新在米元韓国外務部長官・元国軍軍団長中將・元天道教中央総本部教領・倍達民族会議議長平壤着（～7月18日）。

▶普通江逆水工事完工（平壤火力発電所の流出熱湯を普通江に合流、数十キロ逆流させて石岩貯水地に引上げ）。

23日 ▶米国ドナルド・ザゴリア大学教授平壤着（～26日）。

24日 ▶労働新聞署名論説（朱道日上将）「米帝は侵略と戦争挑発を中止し、朝鮮から速やかに撤退せよ」。

25日 ▶「6.25反米闘争デー」平壤市群衆大会（金日成広場）10万余参集、鄭浚基副総理演説、「南朝鮮人民に送るアピール文」採択、デモ。沙里院市、南浦市、咸興市、海州市、元山市、開城市でも群衆大会とデモ。

26日 ▶金主席、崔徳新議長と会見、夕食会。

▶清津市、新義州市、江界市で「6.25反米闘争デー」群衆大会とデモ。

28日 ▶金一副主席、金聖栞会長と会見。

29日 ▶朝鮮中央通信、各地の工場、企業所で今年度上半期計画を繰り上げ遂行と報道——平壤・清川江火力発電所、8月鉾山、城川・鉄原・シンウォン・竜雲などの鉾山と文川炭鉱、2.8セメント工場、陸海運部陸運総局傘下各地輸送部門、その他開城市・南浦市・咸鏡北道東萊官理局傘下製薬工場と全国多くの地方産業工場。

▶共和国側関係者と西ドイツ在住「祖国統一海外キリスト者会」の会談に関する共同報道発表。

30日 ▶朝鮮中央通信、水産業のめざましい発展を報道——去る10年間に漁船隻数1.7倍、西海岸漁場付近に10数の水産業基地を新設。

▶人民経済大学創立35周年記念報告会開催。

7 月

1日 ▶朝鮮・オートボルタ共和国政府間文化協力協定調印（於、オートボルタ首都）。

▶金主席、崔徳新議長を接見（第2回）、昼食会。

▶在北平和統一促進協議会メンバーに勲章授与（2名に国旗勲章第1級、4名に労働勲章、その他）。

▶在北平和統一促進協議会結成25周年記念報告会開催（平壤、牡丹峰劇場）趙英憲最高委員記念報告。「南朝鮮の各党・各派・各界人士に送る手紙」採択。

2日 ▶康良煜副主席、金聖楽会長と会見。

3日 ▶金主席、金聖楽会長を接見（金仲麟同席）。

5日 ▶金主席、朝ソ友好協力・相互援助条約20周年にさいし、ソ連ブレジネフ党書記長・最高幹部議長に祝電。

6日 ▶朝鮮中央通信・力強く繰り上げられる増送闘争を報道——全機関車がけん引定量より50トン級貨車1両以上を積み、無事故定時で運搬する闘争。咸興・清津鉄道局の成果。

▶金主席、ポルトガル革命評議会メンバー・軍事委員マルチンス・ゲレイルを接見（金永南、金勇淳同席）。

▶金一副主席・金聖楽会長共同声明発表。

▶朝鮮中央通信、大同江に今一つの近代的閘門・麦田閘門を建設中と報道（昨年完工の美林閘門の上方烽火山麓に、下流80キロの堤防を築く大閘門）。

8日 ▶党・政府代表団（団長、金敬連副総理）モンゴル人民革命60周年記念行事参加のため出発（～15日帰国）

9日 ▶気象水文事業開始35周年記念報告会開催（平壤、牡丹峰劇場）徐寛熙副総理演説。

10日 ▶金主席、朝中友好協力・相互援助条約20周年で、中国胡耀邦党主席、葉剣英全人代常務委員長に祝電。

12日 ▶朝鮮・ソ連政府間1981～85年度商品納入・支払い協定調印（於、平壤）。

13日 ▶朝鮮・インド共和国政府間1981～82年度文化交流計画書調印（於、平壤）。

▶ポルトガル共和国フランシスコ・ダ・コスタ・ゴメス前大統領一行平壤着（～28日）。

14日 ▶労働新聞、社説で30万ヘクタールの干拓地建設目標を達成する闘争に決起するよう全党員・勤労者にアピール——第2次7カ年計画残り期間に10万ヘクタール、次の段階で20万ヘクタール。

▶党・政府代表団（団長、鄭波基副総理）ニカラグア訪問に出発（～28日帰国）。

16日 ▶ガイアナ協同共和国駐在大使に朴利鉉を任命。

▶血の海歌劇団創立10周年記念報告会（平壤大劇場）。

▶金一副主席、崔徳新議長と会談。

17日 ▶軍事停戦委第406会会議開催（於、板門店）。人

民軍側首席委員韓柱庚少将、米軍側の新型中距離ミサイルの南朝鮮配置決定を糾弾。

18日 ▶金一・崔徳新会談に関する共同声明発表。

19日 ▶社会主義国青少年友好国際飛込大会開幕（～23日）。民主ドイツ、ルーマニア、ハンガリー、チェコスロバキア、ポーランド、ソ連、朝鮮選手団参加。

20日 ▶金主席、ゴメス前大統領一行を接見。

▶ギニアのコナクリで、金主席がセク・トーレ大統領におくる贈物（農機械）伝達式。

21日 ▶祖国統一民主主義戦線結成35周年記念報告会開催（平壤、2.8文化会館）、林春秋記念報告。

▶共和国外交部、レバノンとアラブ諸国に対するイスラエルの侵略策動（バイルート爆撃）を糾弾して声明。

▶朝鮮労働党代表団（団長、尹基福）コンゴ人民共和国訪問に出発（～8月17日帰国）。

23日 ▶18社会団体、米帝侵略者が南朝鮮で働いた犯罪的蛮行を提訴する告訴状発表。

25日 ▶朝鮮労働党代表団（団長、金永南）スペイン共産党第10回大会参加のため出発（～8月11日帰国）。

26日 ▶ポルトガル共和国ゴメス前大統領歓迎群衆集会開催（平壤、中央労働会館）。

▶大安重機械総合工場の青年集会、本年度計画と第2次7カ年計画の繰り上げ完遂闘争推進を決議。全国の青年に「金主席生誕70周年記念忠誠の社会主義競争」を呼びかける。

27日 ▶朝鮮中央通信、電力生産の増大と石炭生産の革新を報道。

29日 ▶男女平等権法令公布35周年記念報告会開催（平壤大劇場）、李鐘玉、朴成哲、徐允錫、朴寿東、金聖愛、許貞淑、黄順姫参加。金聖愛女盟委員長記念報告。

30日 ▶朝鮮中央通信、発展する機械工業を報道——大安重機械総合工場、竜城機械連合企業所の例をあげ、機械設備の自給率98%と指摘。

▶朝鮮中央通信、20万ヘクタールの新土地造成運動の展開を報道——土地造成調査活動全国で、計画の50%以上の対象地を確定、黄海南道で1～2年以内に3万ヘクタールの新土地造成目標を樹立し多くの開墾対象地を確定。

▶捕獲された南朝鮮漁船「第2テチャン号」乗組員記者会見。「民族の偉大な太陽金日成將軍万歳！」「民族の偉大な嚮導星金正日同志万歳！」のスローガンを布に書いて見せ、「金日成將軍の歌」を歌い、スローガンを声高く叫ぶ。

31日 ▶午前10時39～45分に、米SR71機、高城東側領海上空深く侵入し、スパイ行為を働く。

▶ベニン人民共和国大統領特使マルタン・アズイウ党中央政治局員、公報・宣伝相平壤着（～8月11日）。

8月

1日 ▶「友好と友誼のために」社会主義国際射撃大会開幕（平壤，射撃競技場～6日），民主ドイツ，ブルガリア，ハンガリー，キューバ，ソ連，朝鮮選手団参加。

▶日朝友好促進議員連盟久野忠治会長一行平壤着（～7日）。

2日 ▶社会主義国友好国際体操競技大会開幕（平壤体育館），ルーマニア，モンゴル，ブルガリア，ハンガリー，チェコスロバキア，ポーランド，ソ連，朝鮮参加。

3日 ▶南朝鮮漁船「第2テチャン」号海州港より送還。
▶朝鮮中央通信，黄海南道でいま一つの記念碑的創造物「海の貯水地」9.18貯水地完工と報道。

4日 ▶シンガポール共和国駐在大使に姜達善を任命。

▶バングラデシュ人民共和国国会代表团（団長，ミルジャ・コルラム・ハフィズ国会議長）平壤着（～7日）。

▶社会主義諸国青少年友好国際女子バスケットボール競技大会開幕（元山～10日），ブルガリア，ハンガリー，チェコスロバキア，キューバ，ポーランド，朝鮮参加。

6日 ▶祖国統一民主主義戦線第67回会議開催（於，平壤）高麗民主連邦共和国準備委設置・民族統一促進大会召集を決議，「政党・社会団体の連合声明」採択。

▶ブルンジで，朝鮮の友好援助によるニアベル灌漑工事竣工式。バガザ大統領演説。

7日 ▶金主席，ベニン大統領特使を接見。

8日 ▶金正日書記，平壤サーカス劇場の新作サーカス公演を観覧。呉振宇，延亨黙，李昌善同行。

10日 ▶朝鮮中央通信，セメント工業で一大革新——川内里セメント工場で新焼成方法を導入し，燃料消費基準を半分以下に減，時間当たり生産量を4倍に引上げと報道。

11日 ▶スペイン共産党カリリヨ夫妻・家族一行休息のため平壤着（～28日）。

12日 ▶オーストリア社会党中央書記フリッツ・マルシュ夫妻平壤着（～18日）。

13日 ▶金主席夫妻，カリリヨ書記長一行を接見，昼食会。共に学生少年芸術サークル公演を観覧。

14日 ▶午前11時22～30分，米偵察機SR71高城領海上空に侵入（8月に入り8回）。

▶金党総書記，カリリヨ書記長会談（金永南参加）。

15日 ▶金主席，8.15解放36周年に際し，ソ連ブレジネフ書記長に祝電。

▶金主席，マルシュ中央書記夫妻を接見。

▶政府貿易代表团（団長，崔貞根貿易部長），シリア，アルジェリア訪問のため出発。

16日 ▶金主席，咸鏡南道内人民経済各部門事業を現地指導（～20日）。

▶金正日書記，最終段階に入った普通江畔スケートセンター，千席レストラン建設事業を実務指導。

▶朝鮮中央通信，南かいらい軍第1師団15連隊1大隊中隊長石禎鉉大尉（28歳）義挙入北と報道。

17日 ▶中央人民委，両江道新坡郡を「金貞淑郡」に定める政令，新坡女子高等中学校を「金貞淑女子高等中学校」に，恵山第2師範大学を「金貞淑師範大学」に定める政令を発表（注：金貞淑は金正日書記の生母）。

18日 ▶労働新聞論評「売国奴の正体さらけだした分裂主義妄言」金斗煥大統領の光復節慶祝の辞を糾弾。

20日 ▶キューバ共和国，インドロ・マルミエルカ外相夫妻一行平壤着（～25日）。

▶朝鮮中央通信，電力需要を円滑に満たす中小型水力発電所を報道。

21日 ▶朝鮮・エジプト・アラブ共和国政府間科学技術協力に関する1981～82年度交流計画書調印（於，平壤）。

23日 ▶労働新聞，金斗煥ファッショ校刑吏は絶対に統一対話の相手になりえないと論評。

24日 ▶金主席，キューバ外相夫妻一行を接見。

▶朝鮮中央通信，万景台に近代的な遊園地を建設中，朝鮮農民の実質所得この10年間に2.3倍と報道。

▶メキシコ合衆国前大統領ルイス・エチェベリア第3世界社会経済研究センター委員長一行平壤着（～27日）。

25日 ▶金主席，メキシコ前大統領を接見。

▶金正日書記，非同盟・発展途上国食糧・農業増産討論会場視察（金仲麟，延亨黙，許鈞同行）。

26日 ▶非同盟・発展途上国食糧・農業増産討論会開幕（平壤，人民文化宮殿～31日）李鍾玉総理が金主席名義で祝賀演説。81カ国，13国際機構代表团参加。

▶金主席，平壤市内工業部門事業を現地指導（文織通り建設場，平壤電球工場など）。

▶金主席，各国代表团を招宴，演説を行なう。

▶グレナダ駐在大使に朴利鉉を任命。

27日 ▶金党総書記，カリリヨ書記長会談，夕食会。

29日 ▶バングラデシュ人民共和国駐在大使に鄭泰根，オーストリア駐在大使に朴敬善を任命。

30日 ▶金主席，麦田閘門建設場と平安南道江東郡内協同農場を現地指導。

▶党・政府代表团（団長，李鍾玉総理）シリア・アラブ共和国訪問に出発（～9月7日）。

31日 ▶食糧・農業増産討論会最終日，「食糧・農業増産に関する平壤宣言」採択。

▶アフリカ各国（18カ国）農業協議会を召集，金永南，金煥，許鈞，徐寛熙ら参加。

▶食糧・農業討論会の成果を祝う平壤勤労者の夜会開催（金日成広場）。

9 月

1日 ▶軍事停戦委第407回会議開催(板門店)韓柱庚首席委員「北ミサイル攻撃事件」はねつ造と糾弾。

▶米国ハーバード大学教授代表団(団長、テリー・マクドガル教授)平壤着(～11日)。

4日 ▶総連李季白副議長と共和国創建33周年在日朝鮮人祝賀団平壤着(～祝賀団29日, 李副議長10月6日)。

▶日本、宇都宮徳馬参院議員一行平壤着(～11日)。

▶中央人民委「リョム・ボベ女史の死去に関する訃告」発表(抗日闘争時に主席をかくまって身辺保衛。94歳)。

5日 ▶インドネシア共和国政府代表団(団長、モフタル・クスマアトマジャ外相)平壤着(～10日)。

6日 ▶1981年度人民体力検定中央開幕式举行(平壤, 中央労働者会館)(9～10月が検定期間)。

7日 ▶朝鮮中央通信, 金主席が在日同胞に4億1800万円(日本円)の教育援助費と奨学金を送ったと報道(81回, 312億2781万7033円に達する)。

▶金主席, 李季白副議長と在日朝鮮人祝賀団を接見。

8日 ▶共和国創建33周年記念中央報告大会開催(平壤, 人民文化宮殿)朴成哲副主席記念報告。

▶金主席, インドネシア政府代表団を接見。

▶朝鮮中央通信, 咸興市に近代的な咸鏡南道体育館を雄大に建設と報道。

9日 ▶金主席, 共和国創建33周年慶祝宴を催す(平壤, 綿繡山議事堂), 李鐘玉総理演説。

▶創建33周年慶祝大マスゲーム「自主の旗の下に」(牡丹峰劇場), 慶祝平壤市勤労者夜会(金日成広場)。

10日 ▶金主席, 宇都宮徳馬議員を接見。

▶朝日友好促進親善協会結成集会開催(平壤, 千里馬文化会館), 会長に玄峻極を選出し, 規約採択。

▶朝鮮・チェコスロバキア社会主義共和国政府間1982年度商品流通・支払い議定書調印(於, 平壤)。

11日 ▶金主席, 三石区域道徳協同農場で新しく製作した農機具を見て回る(李鐘玉, 金煥, 姜成山, 玄武光, 李根模, 崔載羽, 徐允錫, 姜希源, 徐寛熙ら同行)。

▶金主席, ブルガリア朝鮮友好協会代表団, ブルガリア国立民族歌舞団らを接見。同歌舞団公演を観覧。

▶エジプト・アラブ共和国友好代表団(団長, カマル・ハッサン・アリ副首相兼外相)平壤着(～14日)。

▶朝鮮・ソ連政府間経済・科学技術協力議定書調印(於, モスクワ)。

12日 ▶金主席, 平壤サーカス団の新作サーカス公演を観覧(党・政府幹部同席, 金正日, 吳振宇, 吳克烈は欠)。

13日 ▶金主席, エジプト友好代表団を接見。

▶義挙入北將校石嶺鉉歓迎平壤市群衆集会開催(2.8

文化会館)国旗勲章第2級, 人民軍少佐称号, 賞金2万5000ウォン授与。カラーテレビなど贈呈。

▶工場大学創立30周年記念中央報告会開催(平壤, 人民文化宮殿), 黄長燁記念報告。

▶労働新聞論評「“韓日定期閣僚会議”は何を意味するか」——軍事的結託の新たな局面と糾弾。

14日 ▶イラン国会代表団(団長, アクバル・ハシェミ・ラフサンジャニ国会議長)平壤着(～18日)。

15日 ▶朝鮮・ドイツ民主共和国政府間1982年度商品相互納入に関する議定書調印(於, ベルリン)。

▶朝鮮中央通信, 力強く繰り上げられる技術革新運動を報道——「4.15技術革新突撃隊員」の活動を特筆。

16日 ▶金主席, イラン国会代表団を接見。

▶セントルシア駐在大使に朴利鉉を任命。

▶南浦造船所で1万4000トン級貨物船「長山」号進水。

17日 ▶朝鮮中央通信, 咸興市に最新式設備の咸鏡南道口腔病予防院が建設されたと報道(4棟, 170室)。

18日 ▶金正日書記, 人民大学習堂建設事業実務指導。

20日 ▶朝鮮自然保護連盟第2回大会開催(平壤, 人民文化宮殿～21日), 鄭浚基連盟中央委員長報告。

21日 ▶労働新聞論説「偉大な歴史的根を持った朝鮮革命の前途は洋々としている」——白頭山を朝鮮革命の始原, 革命の揺らんの地と強調。

22日 ▶金主席, 平安南道内の人民経済各部門を現地指導——協同農場, 炭鉉都市チョンナム区など。関係部門活動家協議会で石炭増産, 干拓地大々的造成の課題提示。

▶アルジェリア民主人民共和国軍事代表団(ベンフシャ・ヌレディン領空防衛中央局長)平壤着(～28日)。

26日 ▶金主席, 人民大学習堂を見て回る——延建坪約10万平方メートルの大記念碑的建造物を1年9カ月で建設

27日 ▶朝鮮・ベトナム社会主義共和国政府間1981～82年度商品流通・支払い議定書調印(於, 平壤)。

▶第185次帰国船「万景峰」号清津到着。

28日 ▶朝鮮・シリア・アラブ共和国政府間航空運輸に関する協定調印(於, 平壤)。

▶イエメン・アラブ共和国で, 朝鮮の技術援助によるサヌア競技場着工式举行。

▶崔泓熙「倍達新報」発行人, 国際跆拳道連盟総裁, 平壤着(～10月20日)。

29日 ▶トーゴ共和国グナシンデ・エヤデマ大統領一行平壤着(～10月4日)。

▶金主席・エヤデマ大統領会談。歓迎宴。

▶金正日書記, 李季白総連副議長と会見。夕食会。

30日 ▶金主席, エヤデマ大統領第2回会談。

▶朝鮮・ニカラグア国家再建政府間貿易協定調印(於, マナグア)。

10月

1日 ▶朝鮮・バヌアツ共和国間大使級外交関係樹立に関する協定調印（於、ニューヨーク）。

2日 ▶午後3時6～13分、米偵察機SR71、高城東方領空深く侵入、咸北最北端沿海上空を飛行しスパイ行為。

▶エヤデマ大統領歓迎平壤市民大会（2.8文化会館）。

3日 ▶金主席、エヤデマ大統領第3回会談。

▶金主席、タイ民主党代表団を接見。

4日 ▶朝鮮労働党中央委第6期第4回総会開催（～6日）。議案「全党、全国、全人民がこぞって海面干拓と新しい土地開墾のための大自然改造事業を力強く繰り広げることについて」李鍾玉総理報告。

▶朝鮮・トーゴ共和国間の友好協力に関する条約、同政府間経済技術協力に関する協定調印（於、平壤）。

5日 ▶朝鮮中央通信、南からいり軍第5軍団第6師団所属李相一1等兵（24歳）義挙入北と報道。

6日 ▶金主席、シリア人民軍代表団を接見。

8日 ▶政務院、エジプトのサダト大統領死去に関連し10月9日を「全国哀悼の日」とする決定を採択。

9日 ▶金主席、7号農協の緑地作物を見て回る。

▶政府代表団（団長、朴成哲副主席）サダト大統領葬儀参加のためエジプトへ出発（～13日帰国）。

10日 ▶アラファト PLO 議長一行平壤着（～12日）。

▶金主席、アラファト議長を招宴。

11日 ▶アラファト議長に人民共和国英雄称号、金星メダル、国旗勲章第1級を授与。

▶金主席、農業科学院竜成試験農場で新製作農機具を見て回る（姜成山、崔載羽、徐寛熙、洪成竜ら同行）。

12日 ▶朝鮮中央通信、咸興市に近代的なモビロン工場建設、モビロン綿（ふとん綿）の生産開始と報道。

▶朝鮮・ハンガリー人民共和国政府間1981～82年度文化協力事業計画調印（於、平壤）。

13日 ▶朝鮮中央通信、南朝鮮軍東海警備司令部第88師団所属李弼宇1等兵（24歳）義挙入北と報道。

16日 ▶アンゴラ人民共和国ドス・サントス大統領平壤着（～19日）。金主席、サントス大統領を招宴。

▶打倒帝国主義同盟結成55周年記念平壤市報告会開催（平壤大劇場）、林春秋記念報告。

▶友好軍隊軍事3種類競技選手権大会開幕（於、平壤～18日）ニカラグア、民主ドイツ、ブルガリア、キューバ、ソ連、朝鮮選手団参加。

17日 ▶金主席、サントス大統領会談。

▶朝鮮労働党代表団（団長、尹基福）スペイン社会労働党第29回大会参加のため出発（ポルトガル、イタリアをへて～11月19日帰国）。

▶政府代表団（団長、姜成山）ブルガリア国家形成1300周年記念行事参加のため出発（～26日帰国）。

18日 ▶金主席、サントス大統領第2回会談。

▶サントス大統領に国旗勲章第1級授与。

▶金主席、崔泓熙夫妻を接見。

▶清津造船所で1万4000トン級貨物船「魚隠青年」号進水（全国青少年の忠誠の贈物）。

19日 ▶朝鮮・アンゴラ人民共和国間友好・協力条約、同経済・科学技術・文化協力協定調印（於、平壤）。

▶社労青第7回大会慶祝大マスケゲーム「自主の旗の下に」挙行（平壤、牡丹峰競技場）5万人の学生・少年出演。

20日 ▶朝鮮社会主義労働青年同盟第7回大会開催（於平壤～24日）李英洙委員長「活動総括」報告。

▶金一副主席、崔泓熙先生間会談共同声明発表。

▶ベニン人民共和国オグナ外相平壤着（～25日）。

21日 ▶朝鮮の自主的平和統一を支持する世界記者会議開催（於、モスクワ）；54カ国；5国際組織代表ら300余人参加。

▶金主席、社労青大会参加各国代表を接見。

22日 ▶金主席、ベニン外相を接見。

▶政府軍事代表団（団長、白鶴林人民武力部副部長）ルワンダ共和国訪問に出発（タンザニア、モザンビーク、ザンビア、マダガスカルをへて～12月7日帰国）。

23日 ▶社労青大会第4日目、決定書、アピール文、誓いの手紙採択。李英洙委員長ら新指導機関選出。

▶マレーシア政府技術代表団訪朝共同報道発表（朝鮮は鋼材、同製品、工作機械、石炭、農機械、軽工業品を、マレーシアは天然ゴム、錫、熱帯性木材など納入）。

24日 ▶社労青大会第5日目（最終日）、金主席演説「青年はチュチェ革命大業の頼もしい継承者になろう」。

▶金主席、社労青大会を祝賀して宴会（綿繡山議事堂）。

▶平壤市青年学生慶祝大会開催（金日成広場）、10万余人参加。慶祝青年学生の夜会開催（平壤体育館）、2万余人参加。

26日 ▶マルタ共和国駐在大使に金治燮、レソト共和国駐在大使に康秀明を任命。

▶午前11時19～21分米偵察機SR71、東海高城東方領海上空深く侵入、11時38～40分西海康翎島上空に侵入。

▶金主席、平安北道内工業部門事業を現地指導（～27日）

29日 ▶午後1時50分頃、米F5A戦闘爆撃機2機、江原道金化上空深く侵入して軍事挑発。

▶労働新聞論説「革命勝利に対するゆるぎない信念を抱いて力強く前進するわが人民の大いなる誇り」——革命的楽観主義を強調。

31日 ▶午後4時35分～6時30分、軍事境界線中部甘水峰非武装地帯で、南朝鮮軍が数万発の大口徑機関銃射撃。

11月

2日 ▶金日成総合大学創立35周年記念報告会開催（平壤、人民文化宮殿）、池昌益総長記念報告。

▶朝鮮労働党代表団（団長、金永南）西ドイツ訪問のためボン到着（オーストリアを訪問し～16日帰国）。

▶モザンビークで朝鮮の技術協力によるイナムバ州ノバ・ミンボネ塩田竣工式挙行。

3日 ▶共和国民間航空局・国際民間航空機構間に朝鮮の領空を通過する北京—東京間の直線航路を開設する合意書調印（於、平壤）。

▶午前11時7～25分に米偵察機SR71 西海康翎半島上空と東海高城領海上空に深く侵入してスパイ行為。

4日 ▶午後2時20分頃、南朝鮮軍、前線中部平康南側非武装地帯陣地に完全武装要員10数人を繰りだし、共和国側哨所に数十発機銃射撃。2時38分頃、臨津江左岸非武装地帯内哨所に105ミリ曲射砲で撃ちこむ。

▶朝鮮中央通信、朝鮮芸術映画撮影所で劇映画「タルメとボムダリ」を制作発表と報道。

6日 ▶朝鮮・ブルガリア人民共和国政府間1982年度商品納入・支払いに関する議定書調印（於、平壤）。

▶朝鮮・中華人民共和国政府間科学技術協力委第2回会議議定書調印（於、北京）。

8日 ▶義挙入北兵士李相一歓迎南浦市民集会開催。

9日 ▶軍事停戦委第408回会議開催（板門店）。

11日 ▶金主席、インド紙「ナショナル・ヘラルド」社長を接見。

15日 ▶金星政治大学創立35周年記念報告会開催。

16日 ▶金主席、朝鮮人民軍哨兵熱誠者会議参加者を接見（平壤、2.8文化会館）、呉振宇、呉克烈、金江煥出迎え。

▶労働新聞論説「わが党はチュチェ偉業の完成をめざすたたかいを勝利に導く偉大な指導者」。

▶朝鮮中央通信、各地の工場、企業所で今年度計画を繰り上げ完遂と報道（平壤非鉄金属工場、平壤鋼鉄工場、平安北道中小型発電所連合企業所、シンウォン鉱山、チョンソ地質探査隊、平壤操車場駅、リョンウン鉱山、パンギョ鉱山、中央物理探査団、沙里院荣誉軍人裁縫糸工場、平壤採石事業所など、平壤市内だけで90余工場・企業所）。

17日 ▶米偵察機SR71、午前11時3分頃、黄海南道康翎半島上空に、11時23分頃、高城東側軍事境界線上空に侵入。

▶義挙入北兵士李弼宇を歓迎する平壤市民集会開催（牡丹峰劇場）、賞金1万ウォン授与。

▶朝鮮中央通信、各地の工場、企業所で改造拡張工事を推進と報道（金策製鉄所、楽元機械工場、9月28日工場、6月4日車両工場、ラグヨン鉱山、平壤総合紡績工

場など）。

▶最高人民会議代表団（団長、黄長燁常設会議議長）ルーマニア、ユーゴスラビア訪問に出発（～30日帰国）。

18日 ▶朝鮮・シリア・アラブ共和国政府間1982～83年度文化協定執行計画書調印（於、平壤）。

▶ウガンダ共和国駐在大使に張大熙を任命。

▶朝鮮・ギニア友好協会結成集会開催（平壤、千里馬文化会館）。

19日 ▶朝鮮中央通信、「親愛なる金正日書記を偉大な指導者に戴いた朝鮮の未来は明るい＝訪朝外国人の反響」「親愛なる金正日書記はチュチェの革命偉業を輝かしい勝利に導く英明な指導者＝各国人民の反響」を報道。

20日 ▶朝鮮・ウガンダ友好協会結成集会開催（平壤、千里馬文化会館）。

21日 ▶朝鮮労働党代表団（団長、金永南）中国訪問に出発（～29日）。

▶中国姫鵬飛副首相、金永南と会談、招宴（姫副首相「金正日書記同志の健康のための乾杯」を提議）。

▶全国熱管理員会議開催（平壤、人民文化宮殿～22日）。

23日 ▶中国・鄧小平副主席、朝鮮労働党代表団（金永南）と会見。

24日 ▶総連朴在魯副議長と職総第6回大会在日朝鮮人祝賀団平壤着（～朴副議長12月15日）。

26日 ▶朝鮮中央通信、冬季漁業の豊漁を報道——25日に2万2000トン水準をこえる。魚の水揚げ施設能力は昨年の1.7倍に増大、東海岸地区に1日1万トン能力の大型冷凍工場操業開始など。

27日 ▶朝鮮職業総同盟第6回大会開幕（於、平壤～30日）、金鳳柱委員長総括活動報告。

▶中国、胡耀邦党主席、朝鮮労働党代表団と会見、夕食会（胡主席「金正日同志の精力的な活動を期待」と発言）。

28日 ▶朝鮮キリスト教徒連盟結成35周年記念中央報告会開催（連盟中央会議室）。

29日 ▶職総第6回大会第3日目。「金主席に捧げる誓いの手紙」、活動総括報告、規約改正報告、「南朝鮮労働者に送るアピール文」を採択。中央指導機関選出。

30日 ▶職総第6回大会第4日目（最終日）、金主席演説「労働者階級は全社会のチュチェ思想化をめざす闘争で中核部隊となろう」。

▶金主席、朴在魯副議長と在日朝鮮人祝賀団を接見。

▶『三・一月刊』創刊45周年記念中央報告会開催（於、平壤）、金己南「労働新聞」主筆記念報告。

▶金主席、セーシェル共和国ルネ大統領に連帯電報（11月25日の帝国主義雇用兵の武力侵攻粉碎を祝賀）。

12月

1日 ▶ウガンダ共和国ミルトン・オボテ大統領を団長とする党・政府代表団平壤着（～4日）。

▶金主席、オボテ大統領会談、招宴（金主席夫妻、呉振宇夫妻、朴成哲夫妻、許鏐、鄭浚基、孔鎮泰同席）。

▶最高人民会議代表団（団長、楊亨燮社会科学院長）フランス訪問に出発。

▶青山農業大学（最初の農場大学）開校。

▶朝鮮中央通信「親愛なる金正日書記をチュチェ思想の継承者に戴いた朝鮮人民は幸福である＝各国人民の反響」を報道。

2日 ▶金主席、オボテ大統領第2回目会談。

▶李鐘玉総理一行、ネパール王国訪問のため出発（バングラデシュを経て～12日帰朝）。

▶朝鮮中央通信、11月30日に朝鮮の漁労工1日に3万トンの魚を水揚げ、11月の漁獲計画を2.5倍に遂行と報道。

3日 ▶金主席夫妻、オボテ大統領夫妻のため夕食会。

▶労働新聞論評「オリンピック運動の理念に反する動き」で初めてオリンピックのソウル開催を非難。

4日 ▶朝鮮・ウガンダ共和国間経済・科学技術・文化協力に関する協定、政府間経済・技術協力に関する合意書と貿易協定それぞれ調印（於、平壤）。

▶洪起文社会科学院副委員長に人民共和國英雄称号と金メダル、国旗勳章第1級授与。「李朝実録」を短期間に翻訳した功績による。

6日 ▶金主席、朴在魯副議長を接見。

▶金主席、普通江畔のアイススケート館、清流館レストランを見て回る（党、政府最高幹部多数同行）。

7日 ▶党中央委政治局拡大会議開催（～9日）。金主席司会下で「1982年度人民経済発展計画について」討議。洪成竜副総理兼国家計画委員長報告。決定採択。

8日 ▶朝鮮中央通信、黄海北道銀波郡墨川協同農場の決算分配集会を報道（1世帯当り9トン880キログラムの穀物と2300余ウォンの金を分配）。

▶中央銀行創立35周年記念報告会開催（平壤、人民文化宮殿）（中央銀行創立は1946年10月29日）。

9日 ▶朝鮮中央通信、「李朝実録」の翻訳完了と報道。

10日 ▶米偵察機SR71、午前10時2分頃西海岸康翎半島上空、11時50分頃高城東側上空に侵入。

▶朝鮮中央通信社創立35周年記念報告会開催（平壤、人民文化宮殿）、金声傑社長記念報告。

11日 ▶朝鮮、リビア・アラブ社会主義人民ジャマヒリア政府間共同委員会第3回会議議定書調印（於、平壤）。

▶朝鮮・バングラデシュ人民共和国政府間農業共同委

員会創設に関する協定締結（於、ダッカ）。

14日 ▶米偵察機SR71、午前10時頃西部康翎半島上空に、9時41分頃高城東側領海上空に侵入。

▶セナル少年同盟結成55周年記念中央講演会開催（平壤、社労青中央会館）。

15日 ▶朝鮮中央通信、最近朝鮮・タンザニア連合共和国政府間1981～83年度文化交流計画書調印（於、ダルエスサラーム）と報道。

16日 ▶大安の事業体系創造20周年記念報告会開催（大安重機械工場）、李鐘玉、玄武光、尹基福、李根模、崔載羽、洪時学、洪成竜ら参加。尹基福記念報告。

17日 ▶フランス共和国政府特使フィリップ・マシエフェル上院議員一行平壤着（～22日）。

▶朝鮮中央通信、各地ではかどる基本建設を報道。

▶南の漁船「第一共栄」号（6月11日に西海領海に侵入、捕獲）船員を海州港より送還。

18日 ▶朝鮮・インド共和国政府間1982年度貿易を発展させることに関する合意書調印（於、平壤）。

▶全国鉄道活動家大会開催（平壤、人民文化宮殿～19日）、李鐘玉、玄武光、桂応泰、崔載羽、洪時学、金会一、洪成竜、金斗英、朴容錫、張仁錫ら参加。金会一副総理報告。

▶朝鮮中央通信、昨年同期比700余万KWHの電力増産と報道。

19日 ▶金主席、フランス政府特使を接見。

20日 ▶中国党・政府代表団（団長、趙紫陽首相）平壤着（～24日）。

▶朝鮮・中国党・政府代表団間会談。のち招宴。李鐘玉、桂応泰、鄭松男、玄峻極、金在淑、全明珠ら参加。

21日 ▶朝・中党・政府代表団間第2回会談。

▶金正日書記、牡丹峰競技場改造拡張工事と朝鮮芸術映画撮影所ロケ地建設事業を実務指導（呉振宇、金仲麟、延亨然、許鏐同行）。

22日 ▶金主席、中国党・政府代表団を接見（李鐘玉、金永南、許鏐、桂応泰、玄峻極、金在淑、全明珠参加）。

23日 ▶中国代表団歓迎平壤市民大会開催（2.8文化会館）。

28日 ▶軍事停戦委員会第409回会議開催（板門店）。

29日 ▶米SR71機、午前11時2分頃康翎半島上空、12時43分頃高城東側上空に侵入、スパイ行為。

31日 ▶夜、平壤市学生・少年の迎春の集い開催（平壤体育館）、金主席はじめ党・政府要人多数参加（金正日、金喆乃、朴寿榮ら欠席）。

参 考 資 料

朝鮮民主主義人民共和国 1981年

1. 朝鮮労働党中央委員会第6期第4回総会に関する報道
2. 金日成主席の1982年「新年の辞」
3. 共和国主要国家機関人事構成

1. 朝鮮労働党中央委第6期第4回総会に関する報道 (平壤10月7日発朝鮮中央通信＝朝鮮通信)

朝鮮労働党中央委員会第6期第4回総会が10月4日から6日まで行われた。

総会には、朝鮮労働党中央委員会総書記であるわが党と人民の偉大な指導者金日成同志の司会のもとに行われた。

総会には、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員、政治局委員と委員候補、党中央委員会委員ならびに委員候補が参加した。

総会にはまた、党中央検査委員会委員が参加した。

総会には、中央と地方の党・行政経済機関の責任幹部と工場、企業所の党書記、支配人が傍聴人として参加した。

総会には次のような議案が上程された。

全党、全国、全人民がこぞって海面干拓と新しい土地開墾のための大自然改造事業を力強く繰り広げることについて

朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員で政務院総理の李鐘玉同志が報告を行った。

総会では多くの同志が討論に参加した。

朝鮮労働党中央委員会総書記であるわが党と人民の偉大な指導者金日成同志が重要な結論を述べた。

総会には、偉大な指導者金日成主席が提示した30万ヘクタールの海面干拓と20万ヘクタールの新しい土地開墾、干拓地の水問題を解決するための南浦閘門と泰川発電所建設の雄大な構想を実現するための対策的問題を討議した。

総会には、わが人民の社会主義建設史に末長く輝く大自然改造の大きな創造物を建設し、次の世代に万年の財富を譲り渡すための歴史的な問題を討議する大きな誇りと自負心、新たな闘志と熱情があふれる中で行われた。

討論者は、金日成主席が大自然改造の雄大な構想を新たに提示したことは、わが党の第6回大会が提示した1980年代の社会主義経済建設の綱領的な課題を遂行し、社会主義・共産主義建設を促すうえで一大革命的転換をもたらす歴史的な出来事であると述べ、次のように指摘した。

30万ヘクタールの海面干拓と20万ヘクタールの新しい土地開墾、南浦閘門と泰川発電所建設は、自然を改造してわが人民に自主的に創造的な生活を与えるための社会主義大建設戦闘であり、祖国の富強発展と子孫万代の幸福のための万年大計の大自然改造事業である。

主席は、はやくから大自然改造事業を富強で豊かな新祖国建設の戦闘的課題として提示し、全党と全人民をその実現をめざすたかいへと賢明に指導してきた。

主席が提示した主体的な大自然改造方針が輝かしく貫徹された結果、長い間にわたり荒廃化したわが祖国の国土は、豊かで安定した農業生産地帯に変わり、国土が総合的に展望をもって開発され、この地に天地開びゃくのような偉大な変革が起こった。

総会には、わが党が新たに提起した30万ヘクタールの海面干拓と20万ヘクタールの新しい土地開墾は、主席の偉大な大自然改造構想を輝かしく実現して国土を広げ、祖国の山河を美しく変え、いっそう威力ある農業生産土台を築き、わが人民により豊かな生活を保障するための非常に偉大でさん然たる事業であると指摘した。

総会には次のように指摘した。

30万ヘクタールの干拓地を造成する事業は、数千キロの堤防を築き、より多くの新しい耕地を造成する雄大な大自然改造事業である。30万ヘクタールの干拓地を造成して20万ヘクタールの新しい耕地を確保すれば、わが国は現在の穀物総面積の3分の1に相当する耕地を新しく増やすことになる。これは、わが国の農業発展と社会主義建設史で一つの偉大な出来事になる。

総会には、干拓地の水問題を解決するための南浦閘門と泰川発電所建設は、国土の面貌を一新し、祖国の山河をいっそう暮らしやすい人民の楽園に変える偉大な大自然改造事業であると述べ、次のように指摘した。

南浦閘門を建設すれば、西海岸の干拓地の水問題を円満に解決して新しく建設される膨大な面積の干拓地を豊かな大地に変え、平壤市をはじめ大同江沿岸一帯の自然環境で一大変革を起こすことになる。

南浦閘門が建設されれば、大同江下流地帯の工業用水と飲料水問題が円満に解決され、南浦港と松林港は大小の船が自由に入港できるようになるし、南浦から東川、

徳川、載寧にいたる工業地帯と穀物生産地帯が一つの大運河として結ばれ、内陸地帯の水上運輸の広い展望が開かれ、わが国の鉄道に西海岸循環線が新しく生まれて鉄道運輸が大きく発展する。

西北部を流れる川をせきとめて大寧江に流し、膨大な量の水を貯水してわが国屈指の大規模水力発電所となる泰川発電所事業は、平安北道一帯の干拓地の水問題を解決し、発電能力を画期的に高めるばかりか、大寧江の水を管理して洪水被害を永遠になくし、貯水池周辺の風光をさらに美しく変える大自然改造事業である。

30万ヘクタールの干拓地を造成し、20万ヘクタールの新しい土地を開墾し、南浦開門と泰川発電所を建設すれば国土の面貌は一新し、数千年受け継がれてきたわが祖国の地図はまったく新しく変形して次の世代に譲り渡されるであろう。

総会では、祖国の前途に対する明るい展望を開くこの大自然改造事業はこれまでの歴史にないことで、これは主席の遠大な構想に従って進むわが党だけが提示しうる大胆かつ幅広い大設計であり、党の旗のもとに偉大な奇跡を創造し、力強く前進する英雄的朝鮮人民だけがなしうる誇らしい事業であると強調した。

総会は、わが党が新たに示した大自然改造構想の実現が社会主義・共産主義建設を力強く促すうえでもつ大きな政治経済的意義について特に強調した。総会は次のように指摘した。

30万ヘクタールの海面干拓と20万ヘクタールの新しい土地開墾は、社会主義の完全な勝利を達成して共産主義へと進むための栄えある闘争目標である。

われわれは社会主義農村を建設し、農業を発展させ、食糧問題を解決するうえで大きな勝利を収めた。

われわれが党の農業第一主義方針を徹底的に貫徹して農業生産を飛躍的に発展させることによって、少ない耕地面積で豊かに食べ暮らしているのは、この世にない一つの奇跡のような事実である。これは、わが党が提示した農業テーゼに従って、工業が農業を援助し、都市が農村を支援し、農村技術革命を力強くおし進め、全党、全国、全人民が決起して農業を営んだ結果に達成した誇らしい成果であり、わが党の農村政策の偉大な勝利である。これは、数千年のわが民族史上初の栄光であり、チュチェの革命的旗印を高く掲げて進むわが労働党時代にだけありうる誇らしい事実である。

われわれは、全党、全人民がこぞって農村テーゼを実現し、農業に力を集中することによって今日、少ない土地でも食糧を自給自足している。

しかしわれわれは、各自が能力に従って働き需要に従って分配を受ける共産主義社会の要求に合わせて農業生

産を増やすためには多くの問題を解決しなければならない。

米は社会主義を建設するうえで第一に重要であり、共産主義を建設するうえでも非常に重要な問題である。米すなわち社会主義であり、米すなわち共産主義である。食糧問題をいっそう正しく解決してこそ共産主義を成功裏に建設することができ、能力に従って働き需要に従って分配する共産主義理想を実現することができる。

それゆえわが党は、第6回党大会で社会主義建設の10大展望目標をうちだして1500万トンの穀物と30万ヘクタールの海面干拓を最も重要な目標として提示した。これはわれわれが社会主義・共産主義建設で真っ先に達成すべき目標である。われわれは、米すなわち社会主義というスローガンを引き続き高く掲げ、農業生産を画期的に増大させ、米から共産主義施策をまず実施しなければならない。

総会は次のように指摘した。

干拓地を大々的に造成し、新しい土地開墾運動を力強く展開することは、わが国における農業発展の切実な要求である。農村技術革命が力強くおし進められ、チュチェ農法が貫徹されて穀物単位面積当たりの収量が非常に高い水準に達した条件のもとで穀物生産を速やかに増大させるためには、耕地面積をいっそう増やさなければならない。耕地面積を増やしてこそ人口の成長にともなう食糧需要、急速に発展する軽工業と畜産業に要求される原料と飼料を円満に保障できるし、穀物の予備を十分に蓄えられる。こうなればわれわれは、米の問題と共に油、肉の問題解決で実に飛躍的な転換をもたらすであろう。

総会は、30万ヘクタールの海面干拓と20万ヘクタールの新しい土地開墾は、わが労働党時代に新しくうち立てられる誇らしい記念碑であり、子孫万代に末長く受けつがれる貴い財富であり、わが国における農業生産の急速な発展を確固と保証する威力ある下地であり、共産主義をたぐりよせる聖なる創造物であると指摘した。

総会は、30万ヘクタールの干拓地と20万ヘクタールの新しい耕地を造成し、南浦開門と泰川発電所を建設するこの雄大な4大建設課題が遂行されれば、祖国の大地に新しい広大な田野が開かれ、国の西部地区に近代的な文化農村と大規模の人造湖、大運河が生まれて国の風光はいっそう美しくなり、毎年のように穀物の豊作、肉類の量産を迎えて人民が肉を食べ幸福な生活を送れるようにしようというわが党の遠大な構想とわが人民の世紀的念願がいっそう輝かしく実現されるであろうし、わが国はいっそう暮らしやすい人民の楽園に変わるであろうと指摘した。

総会は、わが党が新たに提起した雄大な大自然改造事業は、祖国の統一偉業にも大きな寄与をなす意義深い出来事であると指摘した。

われわれがこの大自然改造事業を立派に行い、農業生産で新たな転換を起こせば、米帝と南朝鮮かいらい一味の反人民的政策によって常時的な飢饉地帯に転落した南朝鮮人民に大きな希望と励ましを与え、かれらを反ファシズム民主化と祖国統一のための闘争へとという方強く呼び起こすことになるであろう。

総会は、われわれがたたかいを立派に繰り広げて数年間に50万ヘクタールの新しい耕地を確保する大自然改造事業を遂行すれば、チュチェの国、千里馬朝鮮の栄誉と威力はいっそう高まるであろうと指摘した。

総会は、30万ヘクタールの海面干拓と20万ヘクタールの新しい土地開墾は、社会主義建設を促すための経済的な課題ばかりか、チュチェの革命偉業を完成するための崇高な政治的課題であると指摘した。総会は次のように指摘した。

わが党が長い間練ってきた雄大な大自然改造構想を実現することのできるすべての条件と可能性がここにきて十分に整えられた。われわれには雄大な大自然改造事業に必要な機械施設と資材を十分に保障することのできる自主的民族経済の立派な土台、威力ある社会主義工業があり、わが党が育てたはつらつとした技術者の大部隊と社会主義建設の実践闘争で鍛練された多くの指揮幹部があり、干拓地と新しい土地を造成する活動で得た豊かな経験がある。

特に党と指導者のもとに忠誠の一路へと進む限りなく忠実な英雄的人民がいることは、大自然改造事業の勝利のための威力ある保証である。

総会は、30万ヘクタールの干拓地を造成することに関する第6回党大会の決定を掲げて現地におもむき、献身的な努力を傾けて科学研究事業で大きな成果をあげ、農業生産を増大させるうえで寄与した農業科学院の李哲柱（音訳）室長の功労を党と革命に対する限りない忠誠心の表現として高く評価した。

総会は、主席の提議によってわが党の遠大な構想を実現するうえで大きく寄与した李哲柱同志と肅川郡党委員会に総会の名で感謝を送った。

総会は、干拓地造成事業を成功裏に繰り広げるためには、段階を正しく設定し、計画的にこの事業を展開しなければならないと述べ、次のように指摘した。

膨大な建設工事に力を集中して大々的に繰り広げることができるよう準備事業をぬかりなく行い、年次別目標をはっきりと打ち立てたうえで計画的に工事を力強くおし進め、分担を正しく組織して規模が大きい干拓地は専

門干拓地企業所で受けもって遂行し、中小規模の干拓地は大衆の運動で大々的に造成しなければならない。

海面干拓を集中的に繰り広げることができるよう青年たちの労働で干拓地建設力量をしっかりと整え、石の生産能力を大々的に高め、積み降ろし作業を機械化し、プレハブ部品の生産基地を新しく築き、機械修理基地を強化するなど、物質・技術的土台を十分に整え、物資輸送を保障するための鉄道を敷設しなければならない。

海面干拓で自力更生、刻苦奮闘の革命精神を高く発揮してわれわれの力、われわれの技術、われわれの装備で干拓地をより早く、より良く造成するための闘争を繰り広げなければならない。

造成された干拓地にすぐに穀物を植えて高い収穫をあげてこそ、人民が大自然改造の恩恵を受けられるようになるであろうし、こうするためには造成された干拓地に用水および排水体系を確立して土地を整理し、規格圃田をつくるなど内部網建設を積極的におし進めねばならない。

総会は、20万ヘクタールの新しい土地を開墾するための大衆の運動を力強く繰り広げることに関する課題を提起した。

総会は、新しい土地開墾は全党的、全国的、全人民的な事業であり、大衆の運動として力強く繰り広げてこそ成功裏に遂行することができると指摘した。

人民経済のすべての部門、機関、企業所は毎年農作業を支援するように、対象を一つずつ受けもって新しい土地開墾のための戦闘を力強く繰り広げなければならない。規模が大きな対象は、土地建設事業所を組織して年中まめに開墾しなければならない。

わが国には、いまだ耕地として利用することのできる新しい土地の予備が多い。

大衆を動員して、耕地しやすく栽培しやすい小山と丘陵地帯、平野地帯を積極的に造成しなければならない。

これと共に新しく造成した土地ですぐさま農業を営めるよう土地整理を立派に行い、灌漑体系を確立し、労働力とトラクターをはじめ農機械を円満に保障しなければならない。

総会は、かつて党中央委員会1958年9月総会の決定を高く掲げて100万ヘクタールの灌漑面積拡張でわが人民のつきない力を誇示したように、すべての部門、すべての単位で海面干拓と新しい土地開墾運動にこぞって決起し、新しい奇跡を創造して、わが人民の英雄的気質を今一度全世界に力強く誇示するものとの確信を表明した。

総会は、南浦閘門建設を促して1985年までに完工することに関する課題を提起した。

南浦閘門建設は、満ち潮とたたかって8キロ区間に深

さ数十メートルになる海を横に区切って堰堤を築き、大小の船が出入りできるよういくつかの湾を建設し、閘門堰堤の上には自動車道を作り、鉄道を敷設する前例のない困難かつぼう大な規模の工事である。

総会は、閘門建設を短期間に完成するためには建設準備を立派に行うことが重要であると述べ、次のように指摘した。

閘門建設のための準備を手際よく行うためには鉄道と道路建設、骨材とその材料の生産基地建設を優先させ、閘門建設に必要な工業用水と飲料水を円滑に保障するための対策を立てなければならず、閘門建設の工事期間を大きく左右する当面の日照りをくい止める工事に力を集中し、次の梅雨季節までに終えることによって、閘門建設の突破口を開かなければならない。

これと共に閘門建設のための建設力量を強化し、建設において重要技術工程を担当しうる専門建設事業所を早く組織し、新しい施工方法を広くとり入れ、建設作業の機械化を積極的に実現しなければならない。

総会は、南浦閘門建設と関連して大同江、敬寧江の水位が高まることを前提に堤防を補強し、田や畑に浸水する水と溜る水の排水対策をたて、農作物の被害を防がなければならないと指摘した。

総会は、干拓地に水を流し、電力生産を高めるための泰川発電所の建設を急ぐことに関する課題を提起した。泰川発電所はわが党が独創的にうちだした新しい水力資源開発方式の模範的な発電所である。

わが国の内陸山間地帯の広い区間にわたり新しい開発方式で進められる発電所建設を成功裏に保障するためには、その準備事業を手際よく行わなければならない。

まず、建設資材をはじめ⁽⁷⁷⁾ぼう大な水の輸送対策をたてて準備建設を優先させなければならず、建設力量を強化しなければならない。

発電所の建設を促すためには建設で順序を定めて計画的に工事を進め、施設を大型化、現代化、高速度化して運搬作業を多様化しなければならず、特に性能の高い機械施設を積極的にとり入れて工事の速度を高めなければならない。これと共に設計を合理的に行い、実情に合う施行方法を適用してセメントをはじめ建設資材を最大限に節約しなければならない。

総会は、発電所の建設を急ぐ一方、技術準備を優先させ、資材を円滑に供給して大型発電機をその都度、責任をもって生産保障しなければならないと指摘した。

総会は、海面干拓と新しい土地開墾、南浦閘門と泰川発電所の建設を早めるための経済組織事業を強化することに関する課題を提起した。経済組織事業を立派に行うことは、海と川をせき止めて山を削り国土を広げ、その

面貌を一新する巨大な大自然改造事業を成功裏に保障するための重要な要求である。

経済指導活動家が経済組織事業を具体的に行い、戦闘指揮を手際よく行ってこそ大自然改造のための戦闘で輝かしい勝利を達成することができる。

総会は、海面干拓と新しい土地開墾、南浦閘門と泰川発電所の建設工事を計画的におし進めるためには、建設のための展望計画と現行計画を正しく立てなければならないと指摘した。

西海岸と国土資源を総合的に正しく開発利用し、生産力と住民地区の合理的な配置を保障する原則の上で、海面干拓地区と南浦閘門建設地区、泰川発電所建設地区の国土建設総計画を早く作成し、年別計画と戦闘計画を具体的にたて、建設工事を段階的に力強くおし進めなければならない。

総会は、4大建設に対する設計の作成と地質調査活動を優先させ、研究機関と設計機関をよりよく作り、海面干拓と水力構造物の建設で要求される科学技術的問題をその都度解決するよう指摘した。

総会は、4大建設課題を成功裏に遂行するためには、資材、施設をはじめ工事の条件を十分に保障することが重要であると指摘し、人民経済のすべての部門で海面干拓と新しい土地開墾、南浦閘門と泰川発電所の建設に必要なセメント、鋼材をはじめ資材と設備、機能工を優先的に保障し、分担された作業対象を全般的な工事に支障のないようその都度終える一方、技術者養成事業を強化することについて強調した。

総会は、4大建設に動員された建設者への後方供給事業を強化し、経済活動家が偉大な大安の事業体系の要求に合うよう指導を現実⁽⁷⁸⁾にいちだんと接近させ、設備管理、労力管理、資材管理、財政管理、協同生産などのあらゆる経済組織事業を具体的に行い、困難な問題をその都度解決していくよう指摘した。

総会は、海面干拓と新しい土地開墾、南浦閘門と泰川発電所の建設を保障するための党の組織政治事業を強化することに関する課題を提起した。

党の組織政治事業を強化することは、祖國の歴史に末長く輝く万年大計の創造物を建設する巨大な大自然改造事業で成果をなしとげるための決定的保証である。

海や川をせき止めて、干拓地を造成し、広い地域で新しい耕地を確保し、閘門を建設し、川の流れをかえて発電所を建設する大自然改造事業は、党組織が党员と大衆を動員し、かれらの創造的力と知恵を組織動員することによってのみ成功裏に実現することができる。

党組織は党员と勤労者の中に、偉大な指導者金日成主席の独創的な大自然改造方針を深く解説浸透させ、4大

建設課題を質的にも繰り上げて完成するための組織的政治事業を強化することによって、すべての建設者が党と革命に対する尽きない忠誠心と自力更生の革命精神を高く発揚し、大衆的英雄主義と輝かしい労働的偉勲をうちたてるようにしなければならない。

党組織では特に、戦後の困難な状況のもとでも自力更生の革命精神を高く発揮し、自力で多獅島港と絹の島を立派に建設した平安北道干拓地建設総会企業所の労働者階級と活動家の活動気風をすべての活動家が学ばなければならない。

各級の党組織は三大革命赤旗獲得運動と隠れた英雄たちの模範を学ぶ運動をいっそう強化し、経済扇動を力強く繰り広げることによって、すべての建設場で速度戦を力強く起こし、建設者を新しい「海面干拓速度」、「南浦閘門建設速度」、「泰川発電所建設速度」の創造へと呼び起こさなければならない。

また党組織は経済指導活動家が大自然改造戦闘を大胆に行い、戦闘指揮を手際よく行って大自然改造事業で要求されるさまざまな問題を責任をもって解決するようかれらを党をあげて積極的に援助してやらなければならない。多くの資材と設備、労力を要するぼう大な4大建設課題は、全党、全国、全人民が動員されて力強く支援する時、成功裏におし進められるのである。

総会は、各級党組織ですべての活動家と勤労者があらゆる予備と可能性を探しだして動員し、4大建設を物質技術的、労力的に積極的に支援し、勤労者団体を動員して大自然改造事業を支持するための大衆運動を力強く行うよう強調した。

総会は、偉大な指導者金日成主席がうちだした大自然改造に全党、全国、全人民が総動員され、再び世界を驚かす奇跡を創造することによって、国の万年大計のための創造物を建設する栄えある誇らしい闘争において輝かしい勝利を達成するであろうとの確信を表明した。

総会は、当該の決定を採択した。

歴史的な朝鮮労働党中央委員会第6期第4回総会は、上程された議案について成功裏に討議し、6日閉幕した。

2. 金日成主席の1982年「新年の辞」

同志のみなさん／

われわれは、朝鮮労働党第6回大会の決定貫徹をめざす総進軍の最初の年の戦闘を勝利のうちにしめくり、希望にみちた年1982年を迎えました。

慶ばしい元旦を迎えた全国の都市と農村、各家庭には、党の配慮のもとで誇らしい生活を思うぞんぶん享受している人民の幸福と喜びがあふれており、すべての勤労者が党の示す勝利の道に向けて力強くたたかう決意を

固めています。

私は、新たな勝利と栄光に輝く1982年を迎え、党と革命への高度の忠誠心と燃える熱情をいだいて新年に力強い進軍を開始する英雄的な労働者階級と協同農民、勇敢な人民軍将兵と勤労インテリをはじめ、全人民に熱烈な祝賀を送ります。

私は新年に際し、軍事ファシスト一派の過酷な弾圧にも屈することなく、南朝鮮社会の民主化と祖国の統一をめざして勇敢にたたかっている南朝鮮の革命家と青年学生、愛国的な民主人士をはじめ各階各層の人民に、戦闘的なあいさつを送ります。

私は、速く異国の地で社会主義祖国を希望の灯台とおおぎ、新年を迎える70万在日同胞と、すべての海外同胞にあつあいさつを送り、海外同胞の生活に幸多きことを望みます。

1981年は、第6回党大会が示した社会主義建設の雄大な綱領を実現するための栄えある闘争の1年でありました。

昨年、党と革命に限りなく忠実な英雄的労働者階級とすべての勤労者は、「朝鮮労働党第6回大会の決定貫徹をめざし総進軍しよう／」という戦闘的スローガンを高く掲げ、思想、技術、文化の三大革命を力強くくり広げ、全社会のチュチュ思想化で大きな前進を遂げました。

昨年、高度な政治的雰囲気の中で全社会の革命化、労働者階級化が成功裏に進められました。第6回党大会の決定を貫徹する誇らしいたたかいの中で勤労者の革命的熱意はかつてなく高まり、人民大衆の、党への信頼がさらに深まり、革命隊列の思想・意思的な統一が磐石のように固められました。全人民が党のまわりに一丸となって団結し、党の路線と政策を貫徹するために水火をいとわずたたかうのが、こんにち、共和国における誇らしい風格となっています。

昨年、社会主義経済建設で大きな成果が達成されました。

英雄的労働者階級は、集団的技術革新運動と献身的勤労闘争をくり広げて工業生産を急速に発展させ、全国いたるところに多くの大記念碑的建造物を築きあげました。党に限りなく忠実な農業勤労者は昨年、不利な気候条件を克服し、チュチュ農法にもとづいて営農を立派に行ない、大豊作を収めました。また勇敢な漁業労働者は、魚を多く水揚げしようという党の呼びかけに応じて、漁労闘争を力強くくり広げ、冬季漁労でかつてない大きな成果を収めました。

全人民が奮起して生産と建設を積極的に推し進め、技術革命を力強くくり広げた結果、人民経済のチュチュ化、現代化、科学化が成功裏に進められ、国の経済力が

一段と強化されました。

昨年、社会主義文化建設分野でも輝かしい成果が達成されました。学校教育がいっそう発展し、勤労者の文化技術水準が著しく高揚し、すぐれた文学芸術作品が数多く創作されました。とくに科学者、技術者が主体的立場に立って科学研究活動を力強くおし進めた結果、経済建設と民族文化の発展において重要な意義をもつ各種の科学技術上の発明をし、研究成果をあげました。

勇敢な人民軍と人民警備隊の将兵は、党の軍事路線を貫徹して部隊の戦闘準備をさらに完成し、その戦闘力をあらゆる面から強化し、敵の軍事的挑発策動をそのつど破綻させ、祖国の防衛線と革命の獲得物をしっかりと守りました。

昨年、革命闘争と建設事業において達成されたすべての勝利と成果は、朝鮮労働党の正しい指導のもとに、全人民が党のまわりに固く団結して献身的にたたかった結果得られたものであります。

私は、党と革命に対する限りない忠誠心を發揮して第6回党大会の決定貫徹をめざす初年度のたたかいにおいて大きな業種をつみあげた労働者、農民、兵士、勤労インテリをはじめ全人民にあつて感謝を送ります。

同志のみなさん！

1982年は、朝鮮の若き共産主義者たちが抗日遊撃隊を創建し、日本帝国主義に抗して武装闘争を開始した時から50年目にあたるきわめて意義深い年であります。

朝鮮の若き共産主義者たちによる抗日武装闘争の開始は、朝鮮人民の民族解放運動と朝鮮共産主義運動を新たな高い段階に発展させた歴史的なできごとでありました。栄えある抗日武装闘争の最初の銃声が鳴りひびいて以来、すぐる半世紀の間、朝鮮革命は勝利と栄光に輝く誇らしい道を歩み、全社会をチュチェ思想化する非常に高い段階に発展しました。

われわれは今年、革命と建設のすべての分野で新たな一大高揚を起こし、全社会のチュチェ思想化で画期的な前進を遂げ、意義深い年を朝鮮人民の革命闘争史上もっとも輝かしい年にしなければなりません。

朝鮮の若き共産主義者たちによって始原が開かれたチュチェの革命偉業の完成をめざして献身するのは朝鮮労働党員と勤労者の崇高な義務であります。すべての党員と勤労者は、わが党の革命思想、チュチェ思想で武装し、党と革命に対する高度の忠誠心と革命的熱意を余すところなく發揮し、全国を高度の政治的雰囲気をつつみ、社会主義建設のすべての部門で新たな奇跡と革新を起こさなければなりません。

今年、社会主義経済建設でわれわれのもっとも重要な課題は、大自然改造事業を力強くくり広げることであり

ます。今年われわれは、党中央委員会第6期第4回総会の決定を高く掲げ、海面干拓と新しい土地の開墾・南浦開門建設と泰川発電所建設の4大自然改造課題を遂行するために、力強くたたかわなければなりません。

海面干拓と新しい土地開墾、南浦開門建設と泰川発電所建設は、国土を広げ、祖国の山河をさらに麗しく、住みよい人民の楽園に変える大自然改造事業であり、わが国の社会主義制度をいっそう輝かせ、社会主義の完全な勝利と祖国統一を促進するための栄えあるたたかいであります。今年は、全党、全国、全人民が一致して、4大自然改造課題を遂行するたたかいに決起すべきであります。

党の呼びかけにこたえて大自然改造事業に参加するすべての建設者と支援者は、祖国の繁栄をもたらす百年大計の建造物を築きあげるたたかいに参加する誇りと栄誉を胸に、自力更生、刻苦奮闘の革命精神を高く發揮し、各建設場で輝かしい労働の偉業をたてなければなりません。

大自然改造事業は、多くの資材と設備、労働力を要する非常にばう大な事業であります。人民経済各部門では、大自然改造事業に要するセメント、鋼材など、各種の資材と機械設備を優先的に生産、供給し、すべての潜在力と可能性をひきだして大自然改造事業を物質、技術、労働力の各面から力強く支援すべきであります。

今年度人民経済各部門では、第2次7カ年計画をくり上げ完遂するために力強くたたかわなければなりません。

第2次7カ年計画は、あと3年しか残っていません。今年度の戦闘を立派に行なえば、第2次7カ年計画をくり上げて完遂する確固たる展望が開かれます。今年度に人民経済各部門、各単位では、集団的技術革新運動を強力にくり広げ、経済組織活動を綿密に行なって生産を高い水準で正常化し、国家計画を、日、月、4半分ごと、指標ごとにしっかりと遂行すべきであります。

今年度にはまず、化学部門の目標達成に力をそそぐべきであります。化学部門の目標達成は、軽工業と農業の発展を促し、人民生活を一段と高めるうえで重要な意義をもちます。

今年度に化学工業部門では、現存の生産能力をフルに利用する一方、一部の生産施設を改造、拡張して化学繊維と化学肥料、合成樹脂など、化学製品の生産で新たな転換を起こさなければなりません。同時に、中小規模の化学工場を大々的に建設して各種の補助的原料と化学薬品、塗料生産を増大させなければなりません。

金属工業は、今年度にわれわれが力をそそぐべきもっとも重要な部門の一つであります。金属工業に力を入れ

て金属生産目標を達成しなければ、日増しに増大する鉄鋼材と非鉄金属の需要をみたし、人民経済のすべての部門を急速に発展させることができません。

今年、規模が大きく、有望な鉄鉱山と非鉄金属鉱山に力を集中して鉱物の生産を優先させ、金属生産設備を整備、補強し、鋼鉄と圧延鋼材、非鉄金属などの生産を大々的に増やすべきです。とくに、すでに建設した主体的な鉄生産設備の稼働率を高めてコークスと焼成炭を増産し、新しいコークス生産方法を積極的に受け入れて鋼鉄工業の自立性を強化しなければなりません。

人民生活を絶えず高めるのは、わが党の一貫した方針であり、第6回党大会が示した社会主義経済建設の基本課題の一つであります。

人民生活を絶えず高めてこそわが国の社会主義制度の優位性を発揮し、革命と建設を力強く進めることができます。こんにち、われわれには、人民の増大する生活上の要求を十分にみたせる強固な経済的基盤があります。すべての幹部が人民に対する正しい視点に立って、すでに築かれた経済的基盤を有効に利用するならば、人民の生活はさらに裕福になります。

今年は農業第一主義の方針を貫徹して穀物生産において新しい転換を起こすとともに、水産業に力を入れて魚類の水揚げを増やすべきです。また、軽工業を急速に発展させて大衆消費物資の生産を決定的に増やす一方、大衆的運動を展開して、都市と農村に住宅と文化厚生施設を多く建設すべきです。こうして人民の衣食住問題を円滑に解決しなければなりません。

社会主義経済建設を成功裏に進めるためには、人民経済の指導と管理を改善しなければなりません。

わが党は昨年、現実の要求にそくして工業指導体系を新たに改編する画期的な措置をとりました。新しい工業指導体系は、経済指導を現実接近させ、中央の統一的指導と地方の創意を正しく結びつけて大安の指導体系を貫徹させるもっとも優れたわれわれの方式の工業指導体系であります。今年は、新しい工業指導体系にもついで道経済指導委員会などの国家経済指導機関の機能と役割を高め、経済部門幹部の活動方法を改善して経済の指導において決定的な転換をもたらすべきであります。

思想、技術、文化の三大革命の展開は、社会主義建設で成果を達成する決定的保証であります。

今年、各級党組織と三大革命グループは、三大革命の遂行ですでに達成した成果をふまえ、思想革命、技術革命、文化革命をさらに深化発展させ、三大革命赤旗獲得運動と隠れた英雄の模範に見習う運動を着実に展開し、全社会に革命的気風がみなぎり、社会主義建設の各分野で新たな高揚が起こるようにすべきです。

現在、朝鮮人民の革命的熱意と意気込みは高く、国の全般的状態も極めて良好です。各級党組織と幹部は、革命の主人としての態度を堅持し、すべての仕事を責任をもって組織実行し、大衆の革命的熱意と創意を積極的にひきだして、今年度の課題遂行で輝かしい勝利を達成すべきであります。

祖国の自主的平和統一の実現は、全朝鮮人民の最大の民族的課題であります。

昨年、南朝鮮人民と青年学生は史上比類のないファッション的暴圧のもとでも、生存の権利と祖国統一のために反ファッション民主化闘争をねばり強く展開し、広範な各階層の海外同胞が祖国統一の旗のもとに民族的和解と団結を達成し、民族大統一戦線を形成する闘争に立ち上がりました。

昨年1年間、国内外で展開された祖国統一をめざす闘争の過程は、朝鮮労働党第6回大会が提示した新たな祖国統一方案の正しさと生命力を明確に立証しました。広範な同胞の間で日増しに祖国統一機運が高まっており、統一の明るい明が到来しつつあります。

今年、北と南、すべての海外同胞は、思想と制度、党派と政見の相違をこえて固く団結し、分裂主義者の「二つの朝鮮」策動を阻止、破綻させ、高麗民主連邦共和国の創立をめざして力強くたたかい、祖国統一の前途に新たな局面を切り開くべきであります。

国際革命勢力との連帯の強化は、わが党が一貫して堅持している革命路線であります。

昨年、わが党と共和国政府は、自立、親善、平和の旗を高く掲げ、積極的な対外活動を展開し、対外関係分野で大きな成果を達成しました。昨年、わが国で開かれた食糧・農業増産に関する非同盟およびその他発展途上国の討論会や、世界各国の国家首班と各界人士のわが国訪問を通じて、新興勢力諸国との友好関係がとみに発展し、朝鮮革命の国際的連帯がさらに強化されました。

こんにち、国際舞台では、朝鮮に対するアメリカ帝国主義の侵略と干渉策動を暴露糾弾する声が高まっており、朝鮮人民の祖国統一偉業を支持する連帯運動が強力に展開されています。これは、朝鮮人民を大きく励ましています。

私は新年を迎えて、社会主義建設と祖国統一をめざす朝鮮人民の革命偉業に積極的な支持と声援を寄せている世界各国の人民と友人に熱烈な祝賀と新年のあいさつを送ります。

朝鮮人民は今年も、わが党の一貫した対外政策のもとについて反帝自主勢力の団結を強め、新興勢力諸国人民との協力関係を発展させ、世界の平和と安全を守るために積極的に努力するであらう。

同志のみなさん！

今年、われわれに提起された革命課題は非常に光榮あるものであります。すべての党员と勤労者は、党と革命に対する高度の忠誠心と燃える革命的熱意をいだいて継続革新・継続前進し、社会主義建設で新たな一大高揚を起こして、意義深い今年を誇らしい勝利に輝く年にしな

ければなりません。

すべての人びとはチュチェ思想の革命的旗を高く掲げ、党中央委員会のまわりに固く団結して、社会主義の完全な勝利と祖国の自主的平和統一を早めるために力強くたたかきましょう。

3. 共和国主要国家機関人事構成 (1981年12月現在)

1. 中央人民委員会 (1977年12月選出, 15名, 現14名)

順位	氏 名	80年党中央委順位	備 考 (兼職)
1	金 日成	1	国家主席, 党総書記, 党政治局常務委員, 党軍事委員
2	金 一	2	国家副主席, 党政治局常務委員
3	康 良煜	非党员	朝鮮社会民主党委員長
4	崔 賢	7	党政治局委員, 軍事委員
5	朴 成哲	6	国家副主席, 党政治局委員
6	呉 振宇	3	党政治局常務委員, 軍事委員, 政務院人民武力部長
7	徐 哲	9	党政治局委員
8	李 鐘玉	5	党政治局常務委員, 政務院総理
9	林 春秋	8	党政治局委員, 中央人民委書記長
10	呉 白龍	10	党政治局委員, 軍事委員
11	桂 応泰	16	党政治局委員, 政務院副総理
12	金 煥	14	党政治局委員, 書記
13	洪 時学	35	党書記, 政務院副総理
14	金 万金	129	平壤市委人民委員長
15	盧 泰錫	80	79年政務院副総理, 79年死去

2. 政務院総理・副総理 (1981年12月現在) (かっこ内は1980年第6回大会党中央委員順位, 年月は就任判明時)

総 理 李鐘玉 (5) 1977年12月選出

副総理 桂応泰 (16)

許 鎔 (18)

鄭凌基 (25)

姜成山 (17)

孔鎮泰 (24)

金斗英 (39) 以上, 1977年12月選出

姜希源 (75) 78年9月, 80年7月党咸北道責任書記に転出, 現党清津市責任書記

崔載羽 (23) 79年5月

盧泰錫(ナシ)79年8月, 79年12月死去

金敬連 (40) 80年1月

趙世雄 (22) 80年1月, 81年11月党平南道責任書記に転出

徐寛熙 (38) 80年10月

崔 光 (21) 81年3月

李根模 (30) 81年3月, 81年9月党南浦市責任書記に転出

洪時学 (75) 81年4月

金会一(117) 81年9月

洪成竜(116) 81年10月

金福信(ナシ)81年12月

以上累計18名, 現14名

主 要 統 計

朝鮮民主主義人民共和国 1981年

- 第1表 推定人口
 第2表 推定国民総生産
 第3表 経済計画期別の工業生産増加率
 第4表 1980年の基本建設の主要実績
 第5表 主要食糧作物の生産
 第6表 財政規模の推移
 第7表 国防費支出の推移
 第8表 歳出の部門別支出状況
 第9表 主要国別貿易額（中国等を除く）

第1表 推定人口

(単位 100万人)

1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
13.89	14.27	14.66	15.05	15.45	15.85	16.26	16.66	17.07	17.49	17.91

(出所) UN, *Monthly Bulletin of Statistics*, Oct. 1981.

第2表 推定国民総生産

	人 口 1,000人	G N P 100万米ドル	1人当り G N P 米ドル		人口増加率 %	G D P 成 長 率 %	1人当り GNP 増 加 率 %
1977	16,651	11,380	680	1960~70年平均	2.8	7.8	—
1978	17,072*	17,040*	1,000*	1970~78年平均	2.6*	7.2	3.8*
1979 ¹⁾	17,507*	19,720*	1,130	1970~79年平均	2.5	6.2	—

(注) 1) 暫定推計。

(出所) The World Bank, *World Development Report*, 1980, 1981. ただし *印は The World Bank, 1980 *World Bank Atlas*.

第3表 経済計画期別の工業生産増加率

経 済 計 画 期	工業総生産額 年平均増加率 (%)	基準年度に対する倍数 (倍)		
		総 生 産 額	生産手段生産	消費財生産
戦後復旧3カ年計画 (1954~56年) 実績	41.7	2.8	4.1	2.1
5カ年計画 (1957~60年) "	36.6	3.5	3.6	3.3
7カ年計画 (1961~70年) "	12.8	3.3	3.7	2.8
6カ年計画 (1971~76年) "	16.3	2.5	2.6	2.4
第2次7カ年計画 (1978~84年) 目標	12.1	2.2	2.2	2.1

(注) 1977年は「調整の年」として除外されている。

(出所) 公式発表数字にもとづいて作成。

第4表 1980年の基本建設の主要実績 (81年度予定を含む)

部 門	建 設 対 象	進 捗 状 況
全 体	3,000 余の生産建設対象	完 工
金 属 工 業	新 精 錬 所	建 設 中
	アルミニウム工場	建 設 中
化 学 工 業	阿吾地化学工場拡張工事	推 進
	新義州化学繊維工場拡張工事	推 進
	モビロン工場	81年度新設予定
運 輸 部 門	600余キロメートル区間の鉄道電化 (計画を 260 キロメートル超過)	完 成
都 市 建 設	平 壤 産 院	完 成
	蒼 光 院 (平壤市)	完 成
	紋 繡 通 り	81年度新設予定
	人民大学習堂	81年度完工予定
	平壤第1百貨店	81年度新設予定
	咸興市の衛生文化的な化学工業都市化	81年度建設予定

(出所) 「1980年度国家予算執行に関する決算と1981年度国家予算について」(最高人民会議第6期第5回会議における尹基貞財政部長の報告)。

第5表 主要食糧作物の生産*

(単位 1,000トン)

	米	大 麦	小 麦	とうもろこし	粟	こうりゃん	オート麦	穀類合計**	じゃがいも	さつまいも
1969~71	2,392	353	250	1,493	407	115	97	5,147	960	278
1976	4,150	350	340	1,780	427	117	115	7,329	1,300	344
1977	4,610	340	310	1,820	418	120	120	7,790	1,400	360
1978	4,500	350	350	1,850	430	120	125	7,780	1,450	365
1979	4,800	380	370	1,950	440	130	130	8,255	1,500	370
1980	4,800	380	...	2,200	440	130	130	8,510	1,550	...
1981	4,800	400	...	2,200	450	140	140	8,585	1,589	...

* 1976~81年はFAO推定。 ** その他の穀類を含む。

(出所) FAO, *Production Yearbook*, 1978, 1979. FAO, *Monthly Bulletin of Statistics*, Oct. 1981.

第6表 財政規模の推移

(単位 100万ウォン)

年 度	歳 入 増加率(%)		歳 出 増加率(%)		財政収支	地方予算増加率(%)
1971 (決算)	6,357.35	19.0	6,301.68	24.0	55.67	—
1972 (決算)	7,430.30	16.9	7,388.61	17.2	41.69	—
1973 (決算)	8,599.31	15.7	8,313.91	12.5	285.40	…
1974 (決算)	10,015.25	16.5	9,672.19	16.3	343.06	46.5
1975 (決算)	11,586.30	15.7	11,367.48	17.5	218.82	21
1976 (決算)	12,625.83	8.9	12,325.50	8.4	300.33	9.7
1977 (決算)	13,789.00	9.2	13,349.20	8.3	439.80	24.4
1978 (決算)	15,657.30	13.5	14,743.60	10.4	913.70	…
1979 (決算)	17,477.90	11.5	16,972.60	15.1	505.30	10.1
1980 (予算)	18,893.60	8.1	18,893.60	11.3	—	…
(決算)	19,139.23	9.5	18,836.91	11.0	302.32	6
1981 (予算)	20,478.90	7.0	20,478.90	8.7	—	…

(出所) 各年度財政部長報告より作成。

第7表 国防費支出の推移

(単位 100万ウォン)

年 度	国防費*	歳出中の比率 (%)	前年比増加率 (%)	年 度	国防費*	歳出中の比率 (%)	前年比増加率 (%)
1976 (決算)	2,058.36	16.7	10.4	1979 (決算)	2,562.86	15.1	9.3
1977 (決算)	2,095.82	15.7	1.8	1980 (決算)	2,750.19	14.6	7.3
1978 (決算)	2,344.23	15.9	11.9	1981 (予算)	3,010.40	14.7	9.5

* 公表された歳出中の比率より算出したもの。

(出所) 各年度財政部長報告より作成。

第8表 国家財政歳出内容の推移 (対前年増加率)

費 目	1978 年度 決 算	1979 年度 決 算	1980 年度 決 算	1981年度予算
歳 出 総 額	10.4%	11.3%	11.0%	8.7%
人 民 経 済 支 出	10.6%	19.1%	11.1%	9.5%
基 本 建 設	多 くの 資 金	工 業 建 設 巨 額 (工業建設投資の33.3%)	(工業部門の25%)	(多くの部分)
探 取 工 業	22.0%	...	30.0%	25.0%
電 力 工 業	70.0%
機 械 工 業	巨 額 の 資 金	} 巨 額 の 資 金
金 属 工 業	
化 学 工 業	
建 設 工 業	
軽 工 業	膨大な資金
農 業	30.0%	莫 大 な 資 金	膨 大 な 資 金	25.0%
水 産 業	巨 額 の 資 金
輸 送 事 業	い っ そ う 増	50.0%	い っ そ う 増	13.0%
社会文化施策費	7.3%	10.1%	10.0%	6.0%
教 育	20.0%	11.7%	13.0%	7.0%
文 化 芸 術	科学増, 文化 10.0%	科 学 技 術 20.0%	...	増 額
保 健	7.0%	11.6%	20.0%	6.0%
人 民 生 活 向 上 費	都市・農村建設に巨額	住宅建設投資 34.0%	...	住宅 30.0%

(出所) 各年度財政部長報告より作成。

第9表 主要国別貿易額 (中国等を除く)*

(単位 100万米ドル)

	輸 出 (F O B)					輸 入 (C I F)				
	1975	1976	1977	1978	1979	1975	1976	1977	1978	1979
合 計	652.2	461.9	641.2	994.4	1,302.6	970.7	856.3	722.0	851.8	1,148.5
ソ 連・東 欧 圏	318.3	228.9	294.3	409.0	519.6	403.8	370.4	340.2	385.6	519.0
ソ 連	210	157	222	295	391	285	265	246	284	395
東 ド イ ツ	41.3	29.0	22.5	25	30	41.3	29	22.5	25	30
ポ ー ラ ン ド	18	17	16	27	31	12	12	15	19	39
ル ー マ ニ ア	15	7.9	7.8	26.0	28.6	24.5	27.4	19.7	23.6	26.0
工 業 国	106.9	137.6	105.6	178.6	262.2	474.6	290.3	256.9	313.5	431.7
日 本	58.9	62.5	61.0	98.0	137.2	199.1	105.9	138.8	203.1	309.7
西 ド イ ツ	47.0	42.0	20.3	48.2	65.2	83.3	46.1	26.4	36.1	37.1
フ ラ ン ス	38.2	12.9	8.2	4.0	26.4	24.6	20.9	6.0	10.5	8.7
ス イ ス	0.4	0.3	0.7	1.2	14.3	11.1	11.6	12.4	15.9	11.9
オーストラリア	...	0.1	0.4	0.1	0.3	4.1	28.7	41.5	10.3	23.6
開 発 途 上 国	173.0	95.4	241.4	406.8	520.7	92.3	195.6	124.9	152.7	197.8
香 港	6.3	13.5	15.5	16.2	19.3	1.9	2.7	10.3	14.1	42.1
シ ン ガ ポ ー ル	10.5	10.1	6.8	6.2	7.4	8.8	10.4	10.6	38.3	41.5
イ ン ド ネ シ ア	91.4	2.9	16.9	41.9	19.6	0.0	0.5
サ ウ ジ ア ラ ビ ア	8.1	23.1	155.7	277.6	399.4	0.4	0.6
ペ ー ル	0.8	1.5	2.2	2.9	3.2	9.1	3.7	16.9	22.4	24.6
ブ ラ ジ ル	24.2	32.2	40.3	1.2	1.3

* 相手国の貿易統計にもとづく推計であり、貿易統計が得られない中国、その他の諸国が脱落している。輸出は FOB, 輸入は CIF に IMF, DOT 方式で調整済み。(出所) ソ連、東欧圏 (7 カ国) は UN, *Monthly Bulletin of Statistics*, July 1980。ただし、ルーマニアは後記の IMF, DOT の数字による。東ドイツは輸出入合計しか発表しないため、輸出入が均衡しているものと仮定した数字であり、1975~77年は日本貿易振興会中国チーム調べ、1978~79年は昨年度執筆者 (小牧) の推定による。工業国 (9 カ国) と開発途上国 (66 カ国) は、IMF, *Direction of Trade, Yearbook* 1980。